

2023年度
『総合教育演習
(ゼミ)』概要

東京経済大学

目 次

(1)2023 年度「総合教育演習(ゼミ)」手続日程.....	1
(2)総合教育演習表題	2
(3)前年度応募状況	3
(4)シラバス	4~

※シラバスはパソコンで control + f (control を押しながら f を押す) と検索画面でキーワード検索出来ます。

※「演習」については、『2023 年度「演習 (ゼミ)」概要』を参照してください。

2023年度「総合教育演習(ゼミ)」手続日程

選考日程		
第1回	選考予定一覧公開(日時・選考方法)	2月24日(金)～TKUポータルのお知らせで『総合教育演習(ゼミ)』選考予定一覧を確認してください。
	希望登録	3月13日(月)9時～15日(水)24時 TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月13日以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開(場所)	3月17日(金)～TKUポータルのお知らせで『総合教育演習(ゼミ)』選考一覧を確認してください。
	選考実施期間	3月17日(金)、20日(月)・22日(水)
	選考結果発表	3月27日(月)9時～ TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第2回	選考予定一覧公開(日時・選考方法)	3月27日(月)～TKUポータルのお知らせで『総合教育演習(ゼミ)』選考予定一覧を確認してください。
	希望登録	3月27日(月)9時～28日(火)24時 TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月27日以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開(場所)	3月30日(木)～ TKUポータルのお知らせで『総合教育演習(ゼミ)』選考一覧を確認してください。
	選考実施期間	3月30日(木)・31日(金)
	選考結果発表	4月4日(火)9時～ TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第3回	選考一覧公開(日時・選考方法・場所)	4月7日(金)～ TKUポータルのお知らせで『総合教育演習(ゼミ)』選考一覧を確認してください。
	選考実施期間	4月10日(月)～14日(金) ※ 演習授業時または指定された昼休み(教室)。

－ 注意事項 －

- (1) 第1回・2回選考の希望登録は、TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月13日(成績発表の日)以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から行ってください(なお、ゼミ継続生も毎年度、演習選考手続きをしないと履修登録できません)。
- (2) 『総合教育演習(ゼミ)』選考予定一覧』で履修を希望する演習の選考日時・方法を確認し、予定を空けておいてください。
- (3) 『総合教育演習(ゼミ)』選考一覧』で選考の有無・場所等を確認し、選考が実施される場合は必ず出席してください。
- (4) 第2回選考以降は定員に空きのあるゼミのみ申込を受け付けます。
- (5) 第3回選考は、TKUポータルでの希望登録はできません。TKUポータルのお知らせから『第3回「総合教育演習」履修許可カード』を各自ダウンロードし、選考時に持参してください。可否はその場で確認でき、許可されなかった場合は、選考実施期間内に別のゼミの選考を受けることができます。履修を許可された場合、カードに教員の許可印をもらい、期限内に学務課へ提出してください。提出が選考実施期間を過ぎた場合は履修できません。
- (6) 同一年度に「演習」「総合教育演習」とも履修を希望する場合、同時に希望登録することができます。
※ただし、選考日時が重なった場合は、「総合教育演習」担当の先生に選考時間の調整をお願いしてください。
※履修許可となった「総合教育演習」は2023年度に履修指定されます(取消・変更は原則不可)。

以上

総合教育演習表題

	教員名	総合教育演習表題
1	麻生 博之	哲学ゼミ —— 「生きること」をめぐる哲学・倫理学の諸問題を中心に
2	阿部 弘樹	教養のためのプログラミング
3	上野 麻美	『源氏物語』の世界を歩こう
4	榎 基宏	天文学入門
5	遠藤 愛	スポーツ・コーチング論
6	大岡 玲	物語論—「映画」の構造を分析する。
7	大久保 奈弥	海洋生態系の保全
8	小田 登志子	TOEFLに挑戦
9	カレイラ松崎 順子	日本・日本文化を英語で発信する・英語教育全般に関する調査・実践
10	澁谷 知美	ルッキズムについて調べる、発信する
11	新正 裕尚	東経大地学倶楽部 XV
12	鈴木 康弘	競技力向上のためのスポーツ科学
13	関 昭典	多様な他者との交流を通じたセルフリフレクション
14	高井良 健一	ライフストーリーの教育学—人生から学ぶ—
15	高津 秀之	世界遺産をめぐる歴史の旅
16	竹内 秀一	教養としてのデータサイエンス演習
17	田中 景	映画シナリオから学ぶ多文化共生
18	対馬 輝昭	英語によるスピーチ／プレゼンテーションの体系的理解と実践演習
19	寺島 瞳	心理的援助の実際について学ぶ
20	寺田 佳孝	自分の興味関心あるテーマを見つけ、調べる、そして議論する
21	戸邊 秀明	「戦争を選ぶ論理」を考える：日本近代史を通じた検証
22	中川 知佳子	言語学習を科学する
23	野田 淳子	“子育て”支援と家族関係の心理学
24	早尾 貴紀	ポストコロニアル批評で〈世界〉を読む
25	山辺 弦	世界各地域の短編小説を翻訳で読む
26	横畑 知己	現代史を学ぶ—アメリカ合衆国を中心として
27	吉見 崇	現代中国を歴史的に読み解く
28	李 孝徳	アートを深掘りし、ギャラリートークを試みる
29	李 杏理	戦争と民衆について考える

※「総合教育演習」の受け入れ上限は40名です。

※ 開講期は、すべて通年です。

前年度第1回・第2回総合教育演習選考応募状況(2022年3月実施)

	教員名	募集数	第1回				第2回					合計 許可		
			選考方法		申込	許可	募集	選考方法		申込	許可			
1	相澤 伸依	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	11	7	11	面接 (Zoom)	エントリーシート	6	5	12		
2	麻生 博之	18	エントリーシート		10	8	10	エントリーシート		4	4	12		
3	阿部 弘樹	18	エントリーシート	GPA	33	27						27		
4	上野 麻美	18	GPA	※	5	5	13	GPA	※	5	5	10		
5	榎 基宏	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	11	10	8	面接 (Zoom)	エントリーシート	5	4	14		
6	遠藤 愛	18	面接 (Zoom)	レポート	10	7	11	面接 (Zoom)	レポート	15	4	11		
7	大岡 玲	18	面接		40	31						31		
8	大久保 奈弥	18	レポート	エントリーシート	3	3	15	レポート	エントリーシート	0		3		
9	小澤 正典	18	GPA	※	レポート	3	3	15	GPA	※	レポート	4	4	7
10	小田 登志子	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	3	3	15	面接 (Zoom)	エントリーシート	1	1	4		
11	カレイラ松崎 順子	18		エントリーシート	16	16	2		エントリーシート	4	2	18		
12	澁谷 知美	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	31	18						18		
13	新正 裕尚	18	GPA	※	5	5	13	GPA	※	3	3	8		
14	鈴木 康弘	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	7	3	15	エントリーシート		5	3	6		
15	関 昭典	18	面接 (Zoom)	筆記	エントリーシート	4	1	17	面接 (Zoom)	筆記	エントリーシート	7	3	4
16	高井良 健一	18	面接	筆記	3	3	15	面接	筆記	1	1	4		
17	高津 秀之	40	GPA	※	62	40						40		
18	田中 景	18					18	エントリーシート		1	1	1		
19	対馬 輝昭	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	筆記	1	1	17	面接 (Zoom)	エントリーシート	筆記	4	3	4
20	寺島 瞳	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	21	14	4	面接 (Zoom)	エントリーシート	14	9	23		
21	寺田 佳孝	18	面接	レポート	4	2	16	面接	レポート	2	1	3		
22	戸邊 秀明	18	GPA	※	2	2	16	GPA	※	4	4	6		
23	中川 知佳子	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	3	3	15	面接 (Zoom)	エントリーシート	1	0	3		
24	野田 淳子	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	10	10	8	面接 (Zoom)	エントリーシート	5	4	14		
25	早尾 貴紀	18	GPA	※	5	5	13	GPA	※	1	1	6		
26	久川 伸子	18	面接 (Zoom)	エントリーシート	0		18	面接 (Zoom)	エントリーシート	0		0		
27	山辺 弦	18	レポート	面接 (Zoom)	1	1	17	レポート	面接 (Zoom)	2	1	2		
28	横畑 知己	18	GPA	※	5	5	13	GPA	※	7	7	12		
29	吉見 崇	18	GPA	※	0		18	GPA	※	2	2	2		
30	李 孝徳	18		レポート	5	1	17		レポート	3	2	3		
2022年度 計		562			314	234	350			106	74	308		

(注1)※は、応募者数が定員(教員指定の人数:下限18名)以下の場合は申込者全員を履修許可とし、超えた場合のみ選考を実施する。

(注2)網掛け部分は選考を実施していないことを指す

総合教育演習

麻生 博之

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

哲学ゼミ —— 「生きること」をめぐる哲学・倫理学の諸問題を中心に

【授業の形態・方法・内容】

「哲学」というと、何かとつきにくい難解なものであるように思う人がいるかもしれませんが、しかし、哲学とは元来、そうした特別なものではありません。日ごろ当たり前のようになっているものごとを、あらためて問いなおし、じっくりと考えてみようとする営み、それが哲学だといえます。

このゼミ（演習）では、参加者どうしでディスカッションしたり、さまざまなテキストを読んで考えたりすること、さらには自分で研究テーマを決めてそれを掘り下げること等によって、一人ひとりがそうした「哲学」を実際に行なってみることを目的としています。

そのために今回は、ゼミ全体としては、（昨年度に引き続き、）「生きること」をめぐる哲学的・倫理的な諸問題 —— ひとまず大まかにいえば、そもそも「生きる」とは？／「よく生きる」とは？／現在の社会のなかで「生きる」とは？ といった問いにかかわる諸問題 —— を中心的なテーマとして設定します。具体的には、たとえば、

- ・「生きる」ということ——「生命」とは何か？
- ・生きることの「終焉」——「死」とは何か？
- ・生きることに「意味」はあるか？（「ニヒリズム」をどう考えるべきか？）
- ・われわれの生の「アイデンティティー」とは何か？
- ・「自律的」に生きるとは？
- ・「自由」に生きることは可能か？
- ・「他者」と共に生きるとは？
- ・生に「優れたもの／劣ったもの」があるのだろうか？（「生命の質」をどう考えるか？）
- ・生に「正常／異常」があるのだろうか？
- ・「尊厳」のある生／死とは？
- ・生命の「操作」——「バイオテクノロジー」をどう考えるか？
- ・生の「管理」——「生権力」をどう考えるか？

等々の問題について考えてみたいと思います。

ただし、その他のテーマでも自分で考えたいことがある人、哲学の古典的なテキストに興味がある人など、大歓迎です。広い意味で「生」にかかわる哲学的・倫理的な問題をじっくりと考えたい人、そしてまた、あれこれ考えることが好きな人は、ふるってご参加ください。

〔補足〕

- ・サブ・ゼミ（参加／不参加は自由）を開き、哲学の古典をじっくり読むことも考えています。興味のある人はご相談ください。
- ・内容・進め方などについて詳しい説明を聞きたい人、希望・要望などがある人は、いつでも結構ですので、遠慮なく教員研究室（第二研究センター4F）までお越しください。

〔遠隔授業となった場合の授業形態〕

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

〔授業計画：概要〕

詳細については後に示しますが（「授業計画」の欄）、概要としては以下のような進め方を予定しています。

1期はまず、上に示したような諸問題を中心に、入門的なテキストを読み、参加者間でディスカッションすることにより、基本的な問題のありか・構図を確認することからはじめます。そのうえで、各自がこだわって考えてみたい研究テーマを設定し、2期以降は、「ゼミ報告会」での発表も一つの目標として、それぞれの思考を深めてゆくこととします。なお最終的には、1年間の思考の成果を「ゼミ論集」としてまとめる予定です。

毎回の進め方としては、ひとまずは、何人かの担当者にテキストの要約・レポート等の発表、また質問というかたちでの問題提起を行なってもらい、そのうえで全員でディスカッションする、というかたちを基本とします。

なお、具体的な年間計画（予定）は後に示すとおりですが、1期にどのような問題・テーマを扱うかについては、参加者の希望を聞き、相談のうえで決める予定です。（したがって、「授業計画」欄にひとまず示した「問題」①～⑩はあくまで当面の例にすぎず、参加者の希望などによって変わることがあります。）

【到達目標】

- ・自分の考え方やものごとの見方を問いなおし、新たな視点を身につけること。
- ・テキストの読解やディスカッション、レポートの作成、発表などを通して、論理的に考える力、議論をくみだてる力を身につけること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

- ・授業で取り扱うテキストをていねいに読み、疑問点や自分の考えを整理しておくこと。
 - ・報告やレポートの発表がある場合は、レジュメやレポートを作成すること。
- (*「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたるので、「事前・事後学習に要する時間」は「4時間」程度ということになりますが、いうまでもなく人により異なります。)

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション

第2回 問題の共有① —— 生命の「操作」 = 「バイオテクノロジー」をどう考えるか？

第3回 問題の共有② —— 「尊厳」のある生/死とは？

第4回 問題の共有③ —— 生に「優れたもの/劣ったもの」があるのだろうか？

第5回 問題の共有④ —— 生に「正常/異常」があるのだろうか？

第6回 小レポートの発表I

第7回 問題の共有⑤ —— 「自律的」に生きるとは？

第8回 問題の共有⑥ —— 「自由」に生きることは可能か？

第9回 問題の共有⑦ —— 「他者」と共に生きるとは？

第10回 小レポートの発表II

第11回 問題の共有⑧ —— われわれの生の「アイデンティティ」とは何か？

第12回 問題の共有⑨ —— 生きることに「意味」はあるか？（「ニヒリズム」をどう考えるか？）

第13回 問題の共有⑩ —— 生きることの「終焉」＝「死」とは何か？

第14回 問題の共有⑪ —— 「生きる」ということ＝「生命」とは何か？

第15回 小レポートの発表III

第16回 【2期開始】夏休みの課題の発表①

第17回 夏休みの課題の発表②

第18回 思考の深化（各自のテーマごとに：小レポート報告など）①

第19回 思考の深化②

第20回 グループ研究：構想発表

第21回 グループ研究：中間報告①

第22回 グループ研究：中間報告②

第23回 思考の深化③

第24回 思考の深化④

第25回 「ゼミ報告会」のための準備①

第26回 「ゼミ報告会」のための準備②

第27回 「ゼミ論集」のための成果報告①

第28回 「ゼミ論集」のための成果報告②

第29回 「ゼミ論集」のための成果報告③

第30回 まとめ等

【評価方法】

基本的には、ゼミのなかでの報告・発表、学年末のレポートなどを総合して行なう（計100%）。

（なお、ゼミ（演習）である以上、いわば同語反復となるが、報告・提出された課題についてはすべて授業のなかで、もしくは個別にコメント等を行う。）

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

ゼミのなかでそのつど指示する。

【特記事項】

なるべくなら、「哲学」・「倫理学」・「社会思想」等の講義のどれか、もしくはそれらの関連科目（関連する「教養ゼミ」等を含む）を履修済みであることが望ましい。ただし、この点は必須条件ではない。

総合教育演習

阿部 弘樹

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

教養のためのプログラミング

【授業の形態・方法・内容】

この授業ではコンピュータプログラミングの技法について学び、その実践としてオリジナルプログラムの開発に取り組む。プログラミングの初学者を対象とする。プログラミングを学ぶことは技術の習得だけでなく、論理的に考えることや問題を解決する力を養うことにつながる。この授業ではプログラミングの実学的な側面よりも教養的な側面に力点を置いた学習をおこなう。またこの授業ではプログラミングを楽しむことをモットーに学習をおこなう。プログラミングは勉強として学ぼうとするよりも趣味感覚で自分だけのプログラムをこつこつ作っている方が身につきやすい。プログラミングを趣味にできたらそれが一番良い。

プログラミングが活用される分野は多岐に渡るが、この授業では分野を問わず広く使われる技法を取り上げる。そのため学習する項目は絞り込んであるが、シンプルなものを組み合わせて複雑な機能を実現することに力点を置いた教材を扱う。プログラミング言語はJavaScriptを用いる。JavaScriptは動的なウェブページの開発を目的としたプログラミング言語である。そのためJavaScriptの運用には、ウェブページ作成用の言語であるHTMLと連携させる必要がある。この授業でははじめにHTMLについて学習し、その後にJavaScriptの学習に入る。プログラムの開発環境としてはテキストエディタとウェブブラウザがあればよいので、大学のPCルームで作業が可能である。

授業は演習形式で行う。毎回発表者を指名し、その発表に基づき授業を進める。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施する。提出された課題については全体講評を行い、必要に応じて個別のフィードバックを行う。

【到達目標】

前期はサンプルプログラムを読解しながら基本的なプログラミング技法を習得することが目標である。学期末にはオリジナルプログラムを作成する準備を行い、夏季休暇の課題として各々がその開発に取り組む。後期はオブジェクト指向プログラミングの考え方について理解することが目標である。ゲームプログラムのコード解析を通してプログラミングにおけるオブジェクトの役割について見る。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

事前学習として次回扱うトピックについて予習が必要である。授業内で予習用の資料を配布する。なおプログラミングに必要な数学の知識は習得済みとして授業を進める。前提となる数学の知識は、文字式・等式・不等式の運用、変数や関数の取り扱い、「かつ」「または」「否定」に関わる論理である。これらの復習は各自が行うものとする（高校1年までの数学で扱う程度）。事後学習としては、習得したプログラミング技法を用いて演習問題に取り組むことが必要である。演習問題は授業内で提示する。また演習問題を発展させオリジナルプログラムを制作してみるとよい。（事前学習2時間、事後学習2時間程度）

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスと開発環境の準備
- 第2回 HTML
- 第3回 関数と変数
- 第4回 算術演算子
- 第5回 引数と戻り値
- 第6回 コンソールの利用
- 第7回 条件分岐 1
- 第8回 条件分岐 2
- 第9回 繰り返し処理
- 第10回 配列
- 第11回 2次元配列と2重for文
- 第12回 while文による繰り返し処理
- 第13回 canvas
- 第14回 イベント処理
- 第15回 タイマー処理
- 第16回 オブジェクト指向プログラミング
- 第17回 オブジェクト
- 第18回 コンストラクタとインスタンス
- 第19回 プロトタイプ継承
- 第20回 組み込みオブジェクト
- 第21回 ゲームプログラミング 1
- 第22回 ゲームプログラミング 2
- 第23回 ゲームプログラミング 3
- 第24回 ゲームプログラミング 4
- 第25回 ゲームプログラミング 5
- 第26回 ゲームプログラミング 6
- 第27回 ゲームプログラミング 7
- 第28回 ゲームプログラミング 8
- 第29回 ゲームプログラミング 9
- 第30回 ゲームプログラミング 10

【評価方法】

授業参加，発表，課題を総合的に評価する（100％）。

【教科書】

資料を配布する。

【参考文献】

随時指示する。

【特記事項】

総合教育演習

上野 麻美

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

『源氏物語』の世界を歩こう

【授業の形態・方法・内容】

古典文学の名作『源氏物語』をじっくり味わう授業です。この授業は、受講者それぞれが、好きな巻を選び、その内容について調査し解説し、それを受けて学生同士が主体的に議論を交わす、ゼミ形式で行います。特別な古典の知識は必要ありませんが、疑問に思ったことや興味をもったことを、丹念に根気よく調べる姿勢が必要です。一方、聴衆となる受講生には作品を深く味わい議論する姿勢が求められます。そして、双方に必要なのは、旺盛な好奇心です。平安時代の人々は、どんなところで暮らし、何を食べ、何を着て、何を見て楽しんだのか。どんな小さなことでも、興味をもって追究する、旺盛な好奇心を求めます。時空を超えて旅をしながら、文学のみならず、歴史・思想・民俗にも興味を広げていく授業です。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、A型(配信された講義資料などに基づいて学習するもの)またはC型(ZOOM利用)の授業を実施します。

【到達目標】

辞書や事典を参考にしながら、古典の世界をより深く味わう力を養い、人生を楽しむ糧として古典文学に親しむ方法を修得します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

まず、指定テキストで『源氏物語』全巻の概要を予習し、担当したい巻を各自決めます。発表当番回までに、解説のためのレジュメを各自作成します(事前学習の必要時間は合計60時間)。また、ゼミ合宿前には実地踏査見学地の資料を作成し、合宿後にはゼミ報告会で研究内容を発表します(事後学習の必要時間は合計60時間程度)。

【授業計画】

第1回 (I 学期) ガイダンス

第2回 (I 学期) 『源氏物語』概説

第3回 (I 学期) 『源氏物語』と日本文化

第4回 (I 学期) 研究発表1「花の宴」

※「研究発表」の輪読箇所は受講生の人数によって変更する可能性があります。

第5回 (I 学期) 研究発表2「葵」

第6回 (I 学期) 研究発表3「賢木」

第7回 (I 学期) 研究発表4「花散里」

- 第8回 (I 学期) 研究発表 5 「須磨」
- 第9回 (I 学期) 研究発表 6 「明石」
- 第10回 (I 学期) 研究発表 7 「湊標」
- 第11回 (I 学期) 研究発表 8 「蓬生」
- 第12回 (I 学期) 合宿準備 1 …見学地選定
- 第13回 (I 学期) 合宿準備 2 …各部署担当者決定
- 第14回 (I 学期) 合宿準備 3 …「合宿の栞」編集会議
- 第15回 (I 学期) 合宿準備 4 …「合宿の栞」作成
- 第16回 (II 学期) 研究発表 9 「関屋」
- 第17回 (II 学期) 研究発表10 「絵合」
- 第18回 (II 学期) 研究発表11 「松風」
- 第19回 (II 学期) 研究発表12 「薄雲」
- 第20回 (II 学期) 研究発表13 「朝顔」
- 第21回 (II 学期) 研究発表14 「乙女」
- 第22回 (II 学期) 研究発表15 「玉鬘」
- 第23回 (II 学期) 研究発表16 「初音」
- 第24回 (II 学期) 研究発表17 「胡蝶」
- 第25回 (II 学期) 研究発表18 「蛭」
- 第26回 (II 学期) 研究発表19 「常夏」
- 第27回 (II 学期) 研究発表20 「篝火」
- 第28回 (II 学期) ゼミ報告会準備 1 (資料編集会議)
- 第29回 (II 学期) ゼミ報告会準備 2 (発表練習)
- 第30回 総まとめ (研究発表予備日)

【評価方法】

- ・研究発表50% (レジюмеや発表内容) *レジюмеや発表内容に関して発表時に教員が口頭指導および添削というかたちでフィードバックを行う。履修生には修正後のレジюмеの再提出、および補足発表を義務とする。
- ・授業参加状況50% (議論での発言・態度を含む)

【教科書】

ビギナーズクラシックス日本の古典『源氏物語』角川ソフィア文庫

【参考文献】

授業内で必要に応じて指示します。

【特記事項】

この授業では、発言しないと出席とみなしません。新型コロナウイルスの流行が落ち着いていれば、9月の連休に、実地踏査を兼ねたゼミ合宿（原則として全員参加）を実施します。ちなみに2022年度は厳重な感染対策をとったうえで実施しました。今年度の合宿先も京都です。参加費25000円（二泊分の宿泊と食事）と往復交通費で合計50000円程度（新幹線利用の場合）を7月上旬までに用意する必要があります。なお合宿参加補助費として6000円がゼミ合宿後に還付されます。合宿の実施については7月上旬に決定する予定ですが、実施決定後も流行状況によって中止となる場合があります。

総合教育演習

榎 基宏

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

天文学入門

【授業の形態・方法・内容】

・形態・方法

この授業は演習形式で行います。オンライン授業となった場合は、Zoomを使用した遠隔授業の「C型」（リアルタイム配信される授業）として実施します。

・内容

この演習では、宇宙の現象を科学的に読み解く天文学を学びます。天文学を学ぶことの目的の一つは、論理的思考力を鍛えることです。天文学が扱う宇宙の現象の中には、日常の常識や直感では理解できないものが多くあります。宇宙の現象のように、常識や直感では分からないことの本質を理解するためには、論理的に考えなくてはなりません。そのため、天文学を学ぶことは論理的思考力の訓練になります。

*1期

天文学の基礎を系統的に学ぶため、入門的な教科書を輪読します。輪読とは、一冊の指定された本について、発表担当者が本の担当部分の要約を発表し、その発表内容について全員で議論する、ということを取り返して、理解を深めながら読み進めていく学習方法です。輪読は、議論とプレゼンテーションの訓練にもなります。

*2期

パソコンを使った天文データ解析など、1期に教科書で学んだ基礎知識を活用する実習課題に取り組みます。12月のゼミ報告会では、実習の成果を発表します。

なお、授業内での発表、提出されたレポートについて、その都度、議論を通じてフィードバックを行います。

【到達目標】

- ・天文学を学ぶことを通して論理的な思考力を身につける。
- ・ゼミ活動（教科書の輪読、レポートの作成と発表、実習時の議論など）を通して、「文章に書かれていること、他人が考えていること」を正確に理解し、「自分が調べたこと、考えたこと」を他人に正確に伝えられるようにする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

1期は、教科書の輪読を行います。事前に、全員が教科書の各回の範囲を読み込みます。その上で、発表担当者の場合は、レジユメの作成などの発表準備をします。発表担当者でない場合は、疑問点のリストの作成などの議論準備をします。天文学は段階的・系統的に理解しなければ

ならないので、発表準備や議論準備をする際には、それまでに読んだ教科書の内容の復習も必要です。

2期は、天文データ解析などのパソコンを使った実習を行います。毎回、事前の実習の準備が必要です。実習の課題は段階的に進めるものにしますので、事前準備をする際は、それまでの実習結果の整理と復習が必要になります。

なお、「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。

【授業計画】

第1回 【1期】 ガイダンス・教科書の決定

第2回 【1期】 教科書の輪読の進め方、発表の仕方、レジユメの作成法について

第3回 【1期】 輪読 (1)

第4回 【1期】 輪読 (2)

第5回 【1期】 輪読 (3)

第6回 【1期】 輪読 (4)

第7回 【1期】 輪読 (5)

第8回 【1期】 輪読 (6)

第9回 【1期】 輪読 (7)

第10回 【1期】 輪読 (8)

第11回 【1期】 輪読 (9)

第12回 【1期】 輪読 (10)

第13回 【1期】 輪読 (11)

第14回 【1期】 望遠鏡実習

第15回 【1期】 夏季休暇中の課題の選択

第16回 【2期】 夏季休暇中の課題の成果発表

第17回 【2期】 実習課題の選択

第18回 【2期】 実習(1)

第19回 【2期】 実習(2)

第20回 【2期】 実習(3)

第21回 【2期】 実習(4)

第22回 【2期】 実習(5)

第23回 【2期】 実習(6)

- 第24回 【2期】 実習(7)
- 第25回 【2期】 ゼミ報告会準備(1)
- 第26回 【2期】 ゼミ報告会準備(2)
- 第27回 【2期】 ゼミ報告会準備(3)
- 第28回 【2期】 ゼミ報告会の反省と冬季休暇中の課題の選択
- 第29回 【2期】 冬期休暇中の課題の成果発表
- 第30回 【2期】 1年間のまとめ

・上記予定は、輪読や実習の進捗、ゼミ報告会の日程等により、変更されます。

【評価方法】

(1)担当部分の発表、(2)議論への参加状況、(3)夏季と冬季休暇期間中の課題のレポート、(4)2期に行う実習の成果、の4点を総合的に評価します(100%)。詳しくは、4月の第1回目の授業時で説明します。

【教科書】

4月の第1回目の授業時に、教科書の候補を複数提示します。その中から、みんなで議論して教科書を決めます。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【特記事項】

- ・ゼミ時間は延長することもあります。ゼミ時間以降は原則予定を空けておいて下さい。
- ・できれば、「自然の構造a,b」を履修することが望ましいです。
- ・オンライン授業となった場合は、Zoomを使用したリアルタイム配信する遠隔授業になります。Zoomが使用できるように、事前に準備しておいてください。
- ・受講者の希望があり、状況が可能であれば、長期休暇期間に天体観測を行う合宿を実施します。

総合教育演習

遠藤 愛

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

スポーツ・コーチング論

【授業の形態・方法・内容】

コーチングとは、選手が目指す技術を習得するために、身体のどこをどのように動かすのかを具体的に伝え、選手が“できる”ように導くことである。現在では科学的知見もコーチングに活用されているが、数あるデータの中から必要な情報を抽出して解釈し、選手に理解させることも指導者の役割である。さらに、“勝つ”ことを目指す場合は、技術の習得と向上に加えて、“勝つプレー”も教えていかななくてはならない。そのため、指導者には、競技特性や技術・戦術、体力への理解と具体的な習得方法の知識、身体を動かす仕組みへの理解に加えて、多様な運動学習者に対応できる高いコミュニケーション能力、状況を的確に把握し、評価する能力や経験などが求められる。さらにスポーツ指導においては体罰、勝利至上主義、ドーピング、さらには選手のメンタルヘルスなど様々な問題が顕在化している。

そこでこのゼミでは、コーチング理論を学ぶとともに、実際に自分のわざを他者に指導するコーチングの実践を通して、「運動学習者が、運動ができる喜びを実感できる指導とは何か」を探求するとともに、諸問題についても考えながら、コーチングとはどうあるべきかについてそれぞれのゼミ生の考えをまとめていく。この授業は演習形式で、グループワーク、ディベート、発表などを行う。また、遠隔授業に切り替わった場合はzoomを用いたC型で授業を実施する。

ゼミではそれぞれのテーマにおいてその都度、教員から学生へフィードバックを行う。

なお、このゼミの担当教員は、実際にプロスポーツ選手として“わざ”の探究と習得に励み、競技引退後は様々なレベルの選手らに指導した経験がある。これらの経験を生かして、本ゼミでは選手と指導者、双方の視点からコーチングを見つめ、理論と実践を学ぶ。

【到達目標】

この科目では、様々なスポーツに対する知識をもとにして、コーチングの本質を理解し、個々の表現力、伝達力、さらには学ぶ力を高めること、および、スポーツを通してのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

文献や資料など、講義テーマおよび各自の研究テーマに関連したものを指示するので、時には仲間とも協力しながら必要な資料を準備し、内容を理解してから講義に臨むこと。また、毎回の講義後半には教員からの講評を行うので、その講評を参考にしながら自分のわざや技術を他者に伝える効果的な方法を工夫しながら取り組むこと。(事前事後学習：各2時間程度)。

【授業計画】

- 第1回 講義内容についてのガイダンス
ゼミの進め方、評価方法、留意点など詳細を説明するので必ず出席してください。
- 第2回 コーチングとは何か
- 第3回 ヒトの運動学習
- 第4回 体力とは何か
- 第5回 運動技術とは何か
- 第6回 戦術とはなにか
- 第7回 身体知～”私の動き”を言語化する、表現する
- 第8回 身体知について個別で発表
- 第9回 身体知についてグループ発表
- 第10回 スポーツを表現する
- 第11回 さまざまなコーチング方法について
- 第12回 自分が受けてコーチング、自分が行ってきたコーチングを振り返る
- 第13回 研究ノートを書く1 テーマの設定
- 第14回 研究ノートを書く2 文献について
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 ここまでの学びからコーチングをどのように捉えているか
- 第17回 自分の考えるコーチング方法
- 第18回 タレント発掘論～育成計画
- 第19回 コーチングにおける諸問題について：体罰
- 第20回 コーチングにおける諸問題について：ドーピング
- 第21回 コーチングにおける諸問題について：勝利至上主義
- 第22回 コーチングの実践に取り組む：実践方法と評価方法（自己評価と他者評価）
- 第23回 コーチングの実践1
- 第24回 コーチングの実践2
- 第25回 コーチングの実践3
- 第26回 コーチングの実践に対する評価1
- 第27回 コーチングの実践に対する評価2
- 第28回 わかりやすいコーチングとは何か：教えられる側から考える
- 第29回 わかりやすいコーチングとは何か：教える側から考える
- 第30回 我々はどのようなコーチングを目指すべきなのか

【評価方法】

- 1.授業に取り組む姿勢（1.テーマに対してどのように準備し，理解しているか，2.仲間との協力，3.自分の考えを伝えることにおいて，どのように工夫し，実践しているか(50%)。
- 2.課題(50%)

【教科書】

なし

【参考文献】

各テーマに応じて指示します。

【特記事項】

自分で設定したテーマをレポートとしてまとめ，発表し評価することや，仲間と共に学ぶこと，スポーツをすること，見ることなど理論と実践を取り入れた演習に意欲を持って取り組むことが求められる

総合教育演習

大岡 玲

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

物語論—「映画」の構造を分析する。

【授業の形態・方法・内容】

この授業では演習形式を取り、グループワークを中心にした議論や発表を行う。その内容は、「映画」という表現形式をさまざまな切り口で分析し、批評的にその全体構造を探るものである。

それら切り口を見いだす手法として、たとえば「物語の形態論的分析」を初期段階で学習し、それを援用した分析を行う。もちろん、ゼミを進める過程で、さらに発展的に「物語」に関する多くの学問的知見を取り入れていくのは言うまでもない。

受講生へのフィードバックは、グループワーク（議論）の中で口頭で、また提出された課題（レポートなど）に対して口頭もしくはmanabaのコメントで行う。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、A+C型(配信された講義資料などに基づいて学習するA型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせた形式)で授業を実施する。

【到達目標】

映画の構造を多角的に分析することによって、「物語構造」を分類・整理する能力を身につけ、さらにさまざまな表現分野や創作物に対する批評能力全般を養うことを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

事前学習：鑑賞する映画素材について、あらかじめそのストーリーや時代背景、取りあげられている事象の社会的背景などについて下調べをし、予想される作品のポイントについてメモを作成する。

事後学習：映画鑑賞後は、事前に作成したメモと対照しつつ、予想と異なった点や鑑賞によって発見した事柄などについて、以降の議論のためにペーパーを作成し、さらにそれに基づいた「批評」をmanabaのレポート欄に提出する（全体で4時間程度）。

【授業計画】

第1回 ゼミのガイダンスおよび受講生の班分け（A・B・C・Dの4班体制を予定）。

第2回 「物語」を学問的に扱う手法についての基礎知識を、受講生諸君と共有する。

第3回 前期に取りあげる素材について、班ごとに議論し決定。班で決定した素材について、当該班は発表の義務を負う。

- 第4回** A班選定の素材を鑑賞する。
- 第5回** 第4回で鑑賞した作品についての検討及び質疑・議論を、A班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。
- 第6回** B班選定の素材を鑑賞する。
- 第7回** 第6回で鑑賞した作品についての検討及び質疑・議論を、B班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。
- 第8回** C班選定の素材を鑑賞する。
- 第9回** 第8回で鑑賞した作品についての検討及び質疑・議論を、C班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。
- 第10回** D班選定の素材を鑑賞する。
- 第11回** 第10回で鑑賞した作品についての検討及び質疑・議論を、D班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。
- 第12回** この時点で鑑賞し終わっている素材に関して、あらためてそれぞれの作品がはらむ問題について、教員から補完的な解説を行い、受講生からの質疑を受ける。
- 第13回** 第12回の内容を受け、あらためてグループワークによる議論を行う。
- 第14回** 第13回の議論を踏まえ、夏季休暇中の課題になる映画評を書く上でのポイントについて、ゼミ全体として議論を深める。
- 第15回** 1学期の締めくくりとして、教員から受講生に対するフィードバックを口頭で行う。
- 第16回** 第1学期の課題提出と1学期の議論の復習（班の組み替えを行う可能性あり）。
- 第17回** 2学期に取りあげる素材について、班ごとに議論し決定。
- 第18回** A班選定の素材を鑑賞する。
- 第19回** 第18回で鑑賞した作品についての検討及び質疑・議論を、A班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。
- 第20回** B班選定の素材を鑑賞する。
- 第21回** 第20回で鑑賞した作品について検討及び質疑・議論を、B班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。

第22回 C班選定の素材を鑑賞する。

第23回 第22回で鑑賞した作品について検討及び質疑・議論を、C班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。

第24回 D班選定の素材を鑑賞する。

第25回 第24回で鑑賞した作品について検討及び質疑・議論を、D班の発表およびmanabaのレポート欄に提出した受講生ひとりひとりの批評を軸にして行う。

第26回 この時点で鑑賞し終わっている素材に関して、あらためてそれぞれの作品がはらむ問題について、教員から補完的な解説を行い、受講生からの質疑を受ける。

第27回 1・2学期に取りあげた素材を、総合的・俯瞰的に議論する。

第28回 ゼミ論集を作るための作業1・映画評の書き方などの確認・議論。

第29回 ゼミ論集を作るための作業2・シノプシスの書き方などについての確認・議論。

第30回 ゼミ論集を作るための作業3・各受講生の執筆構想の確認。
教員による1年間を通してのゼミの総評。

【評価方法】

素材に関する情報を調べる事前準備、素材の鑑賞を行った後の議論への積極的な参加（manabaのレポート欄に提出する受講生ひとりひとりの批評も重要）を評価する（70%）。加えて、ゼミ論集用の評論など提出物を加対象にする。提出物のノルマは、個々の鑑賞素材に対する批評をmanabaのレポート欄に挙げることに、鑑賞した映画素材全体に関する評論を前期に1つ、後期に1つの計2本。これに加えて、映画のシノプシスを1つ創作する。

評価の目安；ゼミへの参加状況+素材に関する批評（70%）、総論としての映画評・シノプシス（30%）。きわめてすぐれた議論や批評・シノプシスは、大幅な加対象とする。

【教科書】

なし。

【参考文献】

参考文献については、必要に応じて演習開始後に指示する。その場合は、個々人で購入すること。

【特記事項】

素材を鑑賞するために演習の時限延長があるので、注意すること。また、特別授業として、1学期末には歌舞伎鑑賞、2学期末には映画館での素材鑑賞を実施する予定。

総合教育演習

大久保 奈弥

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

海洋生態系の保全

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で個人のテーマを決めて研究を行う。地球上の70%は海である。深さも考慮すれば、海には陸上の100倍近い生息空間があり、沿岸域や外洋域などの様々な海洋生態系に数多くの生き物が暮らす。しかし現在、海水温の上昇や人為的攪乱によって海洋生物が荒廃の危機にさらされている。そして残念ながら、日本は海洋生態系を最も破壊している国の一つとして近年報告された。海に囲まれた日本に住む私たちだからこそ、もっと海の生き物について知らなければならない。この授業では、海にどのような生態系があり、どんな生き物が暮らしているのか、なぜそれらが破壊されてきたのかについて、様々なテキストを読み進めながら学ぶ。各履修者は担当するテーマを決め、それについてレポートを提出し、授業内ではパワーポイントで発表する。発表内容については、その都度フィードバックを行う。遠隔授業になった場合は、授業内容を録画した動画を使用するB型と、manabaを利用したA型のどちらかで授業を行う。

【到達目標】

現代社会において様々な環境問題が生じる中、その解決策を自身で発見・分析する実践的な知識・能力を身につけられることが望ましい。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

担当テーマについてのレポートと発表を作成する必要がある。これらの予習には、授業時間の2倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨソ

第2回 生態系サービス1 供給

第3回 生態系サービス2 調整

第4回 生態系サービス3 文化

第5回 生態系サービス4 基盤

第6回 生態系の多様性

第7回 種の多様性

第8回 遺伝的多様性 1 DNA・RNA

第9回 遺伝的多様性 2 遺伝子

第10回 遺伝的多様性 3 セントラルドグマ

第11回 生態系はどのように破壊されてきたか 1

第12回 生態系はどのように破壊されてきたか 2

第13回 生態系はどのように破壊されてきたか 3

第14回 生態系はどのように破壊されてきたか 4

第15回 前期まとめ

第16回 どうすれば生態系を守れるのか (テーマ設定 1)

第17回 どうすれば生態系を守れるのか (テーマ設定 2)

第18回 どうすれば生態系を守れるのか (テーマ設定 3)

第19回 どうすれば生態系を守れるのか (調査 1)

第20回 どうすれば生態系を守れるのか (調査 2)

第21回 どうすれば生態系を守れるのか (調査 3)

第22回 どうすれば生態系を守れるのか (分析と討論 1)

第23回 どうすれば生態系を守れるのか (分析と討論 2)

第24回 どうすれば生態系を守れるのか (分析と討論 3)

第25回 どうすれば生態系を守れるのか (レポート作成 1)

第26回 どうすれば生態系を守れるのか (レポート作成 2)

第27回 どうすれば生態系を守れるのか (レポート作成 3)

第28回 どうすれば生態系を守れるのか (発表 1)

第29回 どうすれば生態系を守れるのか (発表 2)

第30回 どうすれば生態系を守れるのか (発表 3)

【評価方法】

授業参加状況 (半期で欠席は 2 回まで、遅刻は欠席の半分と数える。半期で 3 回以上欠席すると単位はとれない) に加え、授業内でのレポートと発表、12月のゼミ報告会での発表が単位取得の要件であり、これらを総合的に評価する(100%)。

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

【特記事項】

総合教育演習

小田 登志子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

TOEFLに挑戦

【授業の形態・方法・内容】

・この授業は演習科目である。
・この授業は英語圏への留学希望者を対象とし、英語による基礎学力の養成を行う。前期は主にTOEFL対策を通して、英語で授業を受けるための英語力を養成する。後期はインターネット上で英語による授業を受講し、「模擬留学」を行う。この際、可能であれば「反転授業」の方法を用いる。具体的な内容は以下の通り。

<前期>

- (1) 英作文
 - (2) 語彙テスト
 - (3) 学習記録をつけて、累計学習時間をお互いに公表する（1日2時間を目標とする）
 - (4) 各学期に1～2回TOEFLを実際に受験し、点数をお互いに公表する
 - (5) スピーキング力育成のため、授業外の時間に英会話の練習を何らかの形で行う
- ・フィードバックの方法：毎週の英作文を添削して返信する。授業で行われる英語での発表に対して講評を行う。自己学習の進捗状況に基づいて授業内で助言を行う。

<後期>

- (1) コーセラ(Coursera)などを用いてインターネット上の英語による授業を受講する
 - (2) 英文レポートの作成
 - (3) 学習記録をつけて、累計学習時間をお互いに公表する（1日2時間を目標とする）
 - (4) 学期に1～2回TOEFLを実際に受験し、点数をお互いに公表する
 - (5) スピーキング力育成のため、授業外の時間に英会話の練習を何らかの形で行う
- ・フィードバックの方法：英文レポートを添削して返信する。授業で行われる英語での発表に対して講評を行う。自己学習の進捗状況に基づいて授業内で助言を行う。

<その他>

・感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合にはZoomを用いたC型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

・英語圏の大学に留学できる程度の英語の実践的な能力だけでなく、文書やスピーチの中で強い議論を展開するための論理的思考を身につけることを目標とする。具体的な英語の目標レベルはTOEFL iBT 40点以上。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

・「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたるため、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間以上である。詳しくは以下を参照のこと。

・英作文等、以下の内容をこなすために、1日につき2時間程度の自主学習を行うことを目標とする。英作文は期限までに電子メールに添付して提出する。提出された英作文には、まず電子メール上でフィードバックを行う。このフィードバックを参考にして修正を加えた英作文に対して、授業で再びフィードバックを行う。インターネット上の英語の講義については、「反転授業」を行うので、講義内容は各自が事前に閲覧する。

<前期>

- ・英作文を定められた期日までに提出する
- ・定められた範囲の語彙を事前に学習する
- ・TOEFL・TOEIC等を受験してスコアを提出する

<後期>

- ・インターネット上で英語の授業を受講し、内容をレジメにまとめる
- ・英文レポートを提出する
- ・TOEFL・TOEIC等を受験してスコアを提出する

【授業計画】

第1回 ガイダンス、自己紹介、目標の共有

第2回 英作文1 Independent writing task・英文エッセイの構成・語彙テストと解説1

第3回 英作文2 Independent writing task・英文エッセイの構成・語彙テストと解説2

第4回 英作文3 Independent writing task・自分の主張を支持するには・語彙テストと解説3

第5回 英作文4 Independent writing task・自分の主張を支持するには・語彙テストと解説4

第6回 英作文5 Independent writing task・予想される反論に反論するには・語彙テストと解説5

第7回 英作文6 Integrated writing task・内容をつかむ・語彙テストと解説6

第8回 英作文7 Integrated writing task・内容をつかむ・語彙テストと解説7

第9回 英作文8 Integrated writing task・何を書かなくてはいけないのか・語彙テストと解説8

第10回 英作文9 Integrated writing task・何を書かなくてはいけないのか・語彙テストと解説9

第11回 英作文10 Integrated writing task・幅広いトピックに対応するには・語彙テストと解説10

第12回 英作文11 Integrated speaking task・内容をつかむ・語彙テストと解説11

第13回 英作文12 Integrated speaking task・何を言わなくてはいけないのか・語彙テストと解説12

第14回 英作文13 Integrated speaking task・幅広いトピックに対応するには・語彙テストと解説13

第15回 前期のまとめ・夏休み中の学習について

- 第16回 ガイダンス・コースセラ(Coursera)等、インターネット上の講義の閲覧方法
- 第17回 授業内容の発表と質疑応答 1 英語でレジメを作る・語彙テストと解説14
- 第18回 授業内容の発表と質疑応答 2 英語でレジメを作る・語彙テストと解説15
- 第19回 授業内容の発表と質疑応答 3 重要部分を見極める・語彙テストと解説16
- 第20回 授業内容の発表と質疑応答 4 重要部分を見極める・語彙テストと解説17
- 第21回 授業内容の発表と質疑応答 5 質問をする・語彙テストと解説18
- 第22回 授業内容の発表と質疑応答 6 質問をする・語彙テストと解説19
- 第23回 授業内容の発表と質疑応答 7 関連事項を調べる・語彙テストと解説20
- 第24回 授業内容の発表と質疑応答 8 関連事項を調べる・語彙テストと解説21
- 第25回 授業内容の発表と質疑応答 9 自分の意見を述べる・語彙テストと解説22
- 第26回 授業内容の発表と質疑応答 10 自分の意見を述べる・語彙テストと解説23
- 第27回 授業内容の発表と質疑応答11・英文レポートを書くには・語彙テストと解説24
- 第28回 授業内容の発表と質疑応答12・英文レポートを書くには・語彙テストと解説25
- 第29回 英文レポートに基づくプレゼンテーション
- 第30回 英文レポートの講評・後期のまとめ・今後の英語学習について・留学計画について

【評価方法】

提出された英作文、英文レポート、語彙テストの結果、各種英語テストの点数の伸び具合、累計学習時間などを参考に、総合的に判断する。(100%)

【教科書】

鈴木陽一『DUOセレクト』アイシーピー

その他の教材は授業で指示する。年間で2～3冊を予定。

【参考文献】

授業で指示する。

【特記事項】

このゼミの対象は主に次のような人：

- (1) 東経大の協定校への留学に応募したい人
- (2) 国内・国外の大学院に応募する予定があり、TOEFL受験が必要な人
- (3) できれば英検準2級・TOEIC400点保持者が望ましい

履修にあたっては次の条件を必ず全て満たしていること：

- (1) 具体的な留学希望があること
- (2) 毎日2時間勉強する用意があること

* 留学後にゼミに復帰することを歓迎する。また、留学の成果を地域に還元するために、学会における学生発表や、国際交流課・国分寺市国際協会等が主催する国際交流活動への参加を奨励する。

* 留学の後に余裕をもって就職活動を行うために、2年次から履修することを奨励する。

* 英語「も」できる東経大生の育成を旨とし、専門科目のゼミとのかけもちを奨励する。

* 応募に当たり、留学に伴う費用（生活費・渡航費・卒業が延びた場合の学費など）について保

護者とあらかじめ話し合っておくと良い。

*過去のゼミ生の多くがTOEIC300~400点台から出発し、年間約700時間の自主学習をこなして留学を実現させた後、TOEIC900点台で卒業した。卒業後は商社や海外の日系企業（アメリカ、ドバイ、バンコク）などで活躍。また、海外の大学への編入（ポーランド、マレーシア）および大学院への進学（フランス、イギリス）などのケースもある。

総合教育演習

カレイラ松崎 順子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

日本・日本文化を英語で発信する・英語教育全般に関する調査・実践

【授業の形態・方法・内容】

授業形態

この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行います。

前期

海外ゼミ研修（マルタ共和国またはイギリスを予定）に向けて日本・日本文化（茶道・折紙・浴衣・アニメなど）を英語で紹介する活動の準備を行う。

海外ゼミ研修に向けて各グループが調査テーマを決めて、それに向けて準備を行う。

日本の児童を対象にボランティア活動を図書館などで行う。

後期

英語教育・観光関係・SDGsなどの論文を読み・レポートを執筆する。

日本文化を英語で紹介するブログ・動画を作成する（コロナの状況と学生と相談のうえ決定：大阪・沖縄など：総合教育ワークショップと合同で実施）

日本の児童を対象にボランティア活動を図書館などで行う。

外国人に日本文化を紹介するイベントを開く。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、基本はAB型ですが、学期中に数回Zoomで行います。

なお、本ゼミは卒論や総合教育研究ノートを履修する学生が多く、英語教育のみならず、インバウンド・観光・MaaS・SDGsなど様々なテーマで研究を行っています。

【到達目標】

到達目標は以下の2つです。

日本・日本文化や外国・外国の文化を英語で紹介できるようになること

英語教育や観光・インバウンドなどに関する論文・レポートを書けるようになること

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

事前・事後学習

演習通年4単位のため、週4時間以上の学習が必要です。

以下のリンクで日本文化を英語で学習してください。

<https://tabunka.carreiraenglish.com/tea-ceremony/>

<https://tabunka.carreiraenglish.com/kid-origami/>

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 日本・日本文化を英語で紹介する①

第3回 日本・日本文化を英語で紹介する②

第4回 日本・日本文化を英語で紹介する③

第5回 日本・日本文化を英語で紹介する④

第6回 日本・日本文化を英語で紹介する活動⑤

第7回 海外ゼミ研修の調査についての準備①
日本・日本文化を英語で紹介する活動⑥

第8回 海外ゼミ研修の調査についての準備②
日本・日本文化を英語で紹介する⑦

第9回 海外ゼミ研修の調査についての準備③
日本・日本文化を英語で紹介する⑧

第10回 海外ゼミ研修の調査についての準備④
日本・日本文化を英語で紹介する⑨

第11回 海外ゼミ研修の調査についての準備⑤
日本・日本文化を英語で紹介する⑩

第12回 海外ゼミ研修の調査についての準備⑥
日本・日本文化を英語で紹介する⑪

第13回 海外ゼミ研修の調査についての準備⑦
日本・日本文化を英語で紹介する⑫

第14回 海外ゼミ研修の調査についての準備⑧
日本・日本文化を英語で紹介する⑬

第15回 海外ゼミ研修の調査についての準備⑨
日本・日本文化を英語で紹介する⑭

第16回 レポート・論文の書き方を学ぶ
外国人と交流するための英会話①

第17回 レポートに関する資料を収集
外国人と交流するための英会話②

第18回 レポートを執筆①
外国人と交流するための英会話③

- 第19回** レポートを執筆②
外国人と交流するための英会話④
- 第20回** レポートを執筆③
各グループが決めたテーマへの調査・実践①
- 第21回** レポートを執筆④
各グループが決めたテーマへの調査・実践②
- 第22回** レポートを執筆⑤
各グループが決めたテーマへの調査・実践③
- 第23回** レポートを執筆⑥
各グループが決めたテーマへの調査・実践④
- 第24回** レポートを執筆⑦
各グループが決めたテーマへの調査・実践⑤
- 第25回** レポートを執筆⑧
各グループが決めたテーマへの調査・実践⑥
- 第26回** レポートを執筆⑨
各グループが決めたテーマへの調査・実践⑦
- 第27回** 児童を対象にした英語ボランティア活動の準備①
- 第28回** 児童を対象にした英語ボランティア活動の準備②
- 第29回** 合宿への準備①
- 第30回** 合宿への準備②

【評価方法】

授業参加点（30%）発表会（30%）レポート（40%）で総合評価を行う。

【教科書】

授業で指示する

【参考文献】

卒論・レポートのテーマ

<https://ronbun.carreiraenglish.com/category/theme/how-to-choose/>

卒論・レポートの書き方

<https://ronbun.carreiraenglish.com/category/how-to-write-report/>

【特記事項】

英語を積極的に使おうという意欲があり、研究を熱心に行い、さらに、率先してグループでの役割を果たす責任感のある学生を望みます。

海外ゼミ研修を予定していますので、旅費が必要となります。今年度は9月にマルタまたはイギリスを予定していますが、状況によっては海外ゼミ研修自体が中止になる可能性もあり、また、2月実施になる可能性もあり、その場合は上記の計画とは大きく異なります。また、大阪・京都または沖縄でゼミ合宿を行う予定で、その際には総合教育ワークショップの学生と合同になる可能性があります。その際にも旅費が必要となります。

その他、授業時間内や日帰りでのボランティア活動や調査に行くこともありますので、上記の予

定が変わることがあります。

総合教育演習

澁谷 知美

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ルッキズムについて調べる、発信する

【授業の形態・方法・内容】

※初回ゼミを無断欠席した者の履修を認めない。

※「評価方法」「特記事項」も必読のこと。

【形態】演習科目である。グループワークを行う（遠隔授業となった場合はC型=Zoomを使つてのリアルタイム授業となる）。

【方法・内容】以下の3つの活動を主な柱とする。もっとも比重が割かれるのは1)である。

1) ルッキズムについて調べる、発信する

電車に乗り込むと、「脱毛しよう」という脱毛サロンの広告と「毛を生やそう」という薄毛クリニックの広告が隣あって並んでいるのを見る。動画サイトにアクセスすると、美容整形外科のCMが流れる。顔の整形だけではない。下半身のそれもCMはすすめてくる。インスタを開けば、芸能人から素人まで、「映え」を意識した写真がずらりと並ぶ。かわいい顔、クールな表情、すらりとしたスタイル、ほどよく筋肉質な体。それを見た私は、新しい服とコスメを買うことを決め、明日からダイエットと筋トレに励むことにした――。

このように、多くの人びとは「見た目」に囚われている。そして、「見た目」を過剰に重視する考えをルッキズムと呼ぶ。このゼミでは、ルッキズムの現状と、ルッキズムが私たちに与えるさまざまな影響を調査（文献調査、場合によってはそれに加えてアンケート調査）する。そして、その結果を動画にまとめ、同世代の学生に「ルッキズムとは何か、その影響はどんなものか」を理解してもらう。

ルッキズムの影響として考えられるのは、次のようなものだ。個人の身体に生じるものとしては、醜形恐怖、拒食症、整形の失敗など。また、社会的には、見た目で選考される不平等な就職試験、「ダサイ」人を有形無形に軽んじる傾向などがある。女性差別/障がい者差別/人種差別などのさまざまな差別との関連性も指摘されている。

このように、ルッキズムをめぐる問題の射程はきわめて広く、社会的なものであり、ルッキズムを「個人の趣味趣向」として済ませることはできない。文献調査と議論によって、ルッキズムについての私たちなりの整理をし、それを他者に発信することを通じて、現代社会を理解したい。

以上に加え、以下の2点を実施する。

2) 就活準備（就活体験談、エントリーシート発表会、模擬面接など）

3) 他人を尊重しつつ自己主張をするアサーティブ・トレーニング

【方針など】ゼミ時間外には準備が必要（下記「準備学習」参照）。また、遅刻と欠席には厳しく対処する（下記「評価方法」「特記事項」参照）。また、ゼミでは、学生同士の話し合い、ロールプレイング、共同作業に多くの時間が費やされる。

【到達目標】

活動ごとの目標は次のとおり。文献講読を通じて論理的思考力を養い、動画制作を通じて他者に伝わる説明ができる能力を養う。就活準備では、今後、自分がどのように生きていきたいかを考える。アサーティブ・トレーニングでは、他者にたいする要求と謝絶をさわやかに行うこと

で、人づきあいをめぐるストレスを低減するスキルを身につける。上記の活動を通じて、「他者を尊重しつつ自由に生きられる人」になることが最終的な到達目標である。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

全員に必要なことは、その週の指定文献を読むこと、議論の素材となる意見を用意してくることである。発表担当者は、以上に加え、レジメをまとめる。随時、それ以外の宿題（文献調査等）が出る。各週の自習の所要時間はおよそ授業時間の2倍。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、レジメの作り方
※予定を変更する場合がある。以下同
- 第2回 自己紹介、アイスブレイク
- 第3回 文献講読 1
- 第4回 文献講読 2
- 第5回 文献講読 3
- 第6回 文献講読 4
- 第7回 文献講読 5
- 第8回 文献講読 6
- 第9回 動画の構成を考える 1
※アンケート調査をする場合は質問項目の設定
- 第10回 動画の構成を考える 2
- 第11回 動画のシナリオを考える 1
※アンケート調査をする場合は回答の集計
- 第12回 動画のシナリオを考える 2
- 第13回 動画のシナリオを考える 3
- 第14回 アサーティブ・トレーニング 1 人に要求する
- 第15回 アサーティブ・トレーニング 2 依頼を謝絶する
- 第16回 2期のスケジュール確認、ESの書き方
- 第17回 就活体験談
- 第18回 パワポを作る 1
- 第19回 パワポを作る 2
- 第20回 パワポを作る 3

第21回 音声を入れる 1

第22回 音声を入れる 2

第23回 音声を入れる 3

第24回 レビュー会 1

第25回 パワポを修正する 1

第26回 パワポを修正する 2

第27回 レビュー会 2

第28回 動画にたいする視聴者からのフィードバックの確認

第29回 E S 発表会

第30回 模擬面接

【評価方法】

以下の者は成績「不可」。以下の条件をクリアした者についてのみ、参加度、課題の達成度を総合的に評価する。1) 1 学期につき 3 回以上欠席した者（合理的な理由なき遅刻も欠席扱い）、2) 初回ゼミを無断欠席した者。

授業内での発表について、その都度、フィードバックを行う。

授業参加、発表、レポート、課題を総合的に評価する（100%）。

【教科書】

指定しない。

【参考文献】

磯野真穂、2021『ダイエット幻想 やせること、愛されること』筑摩書房

澁谷知美、2021『日本の包茎 男の体の200年史』筑摩書房

『現代思想』2021年11月号（特集：ルッキズムを考える）

【特記事項】

- ・遅刻と欠席には厳しく対応する。
- ・必須ではないが、「ジェンダー論」その他関連科目を受講したことのある者、もしくは受講予定の者の履修が望ましい。
- ・通常程度のやる気があればついてこられる内容である。が、あまりに長時間のバイトに従事している者、不規則な生活をしている者、注意力散漫な者、人と話したり共同作業をするのに苦痛を覚える者は単位取得が困難と思われる。
- ・合宿は実施しない。

総合教育演習

新正 裕尚

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

東経大地学倶楽部 XV

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式であり、テキストの輪講に加え、グループでの実験、野外を含む学外見学などの研究活動を行います。

地球科学関連分野に関して、様々な手法により探求型の学習を行います。1期は基礎的な学習、2期はテーマを設定したグループ研究が中心となります。テーマは議論して決めますが近年はおもに火山に関連した事柄を取り上げてきました。

実験・実習を行う際には、自主性を持って学生同士で工夫、協力して進めることが必要です。年度末には活動の成果をまとめて、ゼミ報告会でのプレゼンなどを通して1年間の総括をします。

個人発表については、その場でコメントをつけることでフィードバックを行います。また、グループでの活動についても、区切りの部分での意見交換を通じてフィードバックを行います。

感染症の状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

一年の活動を通じて、広い意味での地球科学への興味を養うこと、および、実験・実習を通じて手作業を丁寧に行うことの重要性を実感することを目指します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

それぞれの授業で取り扱った内容を後の発表やレポートに生かすことができるように整理しておかねばなりません。また次回授業に必要な資料を調査・精読しておくことが必要です。特に発表の前は内容の準備や発表の練習などを個別・グループで行うことが必須となります。授業回によって異なりますが、平均すると1授業回あたり4時間程度を要します。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 文献学習 (1)

第3回 文献学習 (2)

第4回 文献学習 (3)

第5回 前回までのまとめ

第6回 実験・実習 (1)

第7回 実験・実習 (2)

- 第8回 文献学習 (4)
- 第9回 文献学習 (5)
- 第10回 文献学習 (6)
- 第11回 実験・実習 (3)
- 第12回 外部見学
- 第13回 前回までのまとめ
- 第14回 夏季休暇・2期活動の準備 (1)
- 第15回 夏季休暇・2期活動の準備 (2)
(夏季休暇中：国外または国内研修)
- 第16回 夏季研修総括・2期活動の相談
- 第17回 グループ研究 (1)
- 第18回 グループ研究 (2)
- 第19回 グループ研究 (3)
- 第20回 グループ研究 (4)
- 第21回 研究中間まとめ・発表
- 第22回 グループ研究 (5)
- 第23回 グループ研究 (6)
- 第24回 グループ研究 (7)
- 第25回 グループ研究 (8)
- 第26回 ゼミ報告会準備 (1)
- 第27回 ゼミ報告会準備 (2)
- 第28回 年間の活動とりまとめ (1)
- 第29回 年間の活動とりまとめ (2)
- 第30回 年間の活動とりまとめ (3)

【評価方法】

授業への参加の積極性、発表、レポート等の制作物により総合的に判断します(100%)。国外あるいは国内研修、外部見学等への積極的な参加、発表会等の行事への参加・貢献を重視します。あわせて実験や発表準備などの共同作業への貢献を勘案します。

【教科書】

教科書は使用しません。必要に応じて授業内で参考文献を提示します。

【参考文献】

授業内でテーマに沿って随時紹介します。

【特記事項】

外部見学、ゼミ報告会の日程により授業計画を変更することがあります。その場合は適宜相談しながら進めます。感染症の状況により、実験、実習や下記の外部研修や見学が行えない場合は、文献学習中心で進めることになります。

夏季に海外ゼミ研修を行うことを計画しており、原則的に参加を求めます。実施時期は8月後半から9月前半を予定していますが、詳細な時期は話し合っで決めます。海外研修が行えない場合は国内研修に切り替えます。さらにこれらの宿泊を伴う研修が実施不能であれば、単発の近隣の施設あるいは野外見学を行います。

総合教育演習

鈴木 康弘

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

競技力向上のためのスポーツ科学

【授業の形態・方法・内容】

オリンピックや世界選手権などが開催される競技スポーツでは、その競技パフォーマンスは年々高度化しています。その要因の1つとして、スポーツ科学の研究分野で明らかになったトレーニング法やコンディショニング法が強化現場で取り入れられるようになったことが挙げられます。

本授業では、スポーツ科学の基礎を学びながら、自身が実施している競技のパフォーマンスを効率的かつ効果的に高めるために必要なトレーニング法、コンディショニング法、戦術・戦略などについて文献や書籍などをもとにして深く理解できるようにします。また、自身の競技パフォーマンス向上に必要な能力とは何かを測定・評価することによって明らかにし、さらにその能力をどのようなトレーニングで向上させることができるのかを探究していきます。

本授業は、講義とその内容に関する演習で構成され、各演習課題の進捗報告に対しては、その都度フィードバックを行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

スポーツ科学の基礎的な知識をもとにして、競技力向上に必要なさまざまな要素を理解し、課題を見つけ、測定・調査し、考察するという一連の流れを通して、課題解決能力を高めることを目的とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

授業で紹介した文献、書籍・雑誌、web等もしくは配布した資料を用いて、授業時に提示した課題について資料を作成してもらいます。その資料をもとにして、次回の授業でグループワークや個別のディスカッションを行います。

(事前事後学習：各2時間程度)

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 専門競技の選択とタレント発掘

第3回 専門競技に必要な体力要素

第4回 専門競技に必要な技術要素

第5回 専門競技に必要な栄養・心理・戦略・戦術要素

- 第6回 オリンピック・世界選手権にみる最高のパフォーマンス
- 第7回 国内大会にみる最高のパフォーマンス
- 第8回 自身の最高のパフォーマンスを振り返る
- 第9回 競技力向上に関する研究の基礎知識
- 第10回 研究の基本を学ぶ (1) 文献検索
- 第11回 専門競技に関する文献発表 (体力面)
- 第12回 専門競技に関する文献発表 (技術面)
- 第13回 専門競技に関する文献発表 (心理面)
- 第14回 専門競技に関する文献発表 (栄養面)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 研究の基本を学ぶ (2) データ入力・図表作成 (Excel)
- 第17回 専門競技に関する体力を測定・評価する①
- 第18回 専門競技に関する体力を測定・評価する②
- 第19回 専門競技に関する体力を測定・評価する③
- 第20回 専門競技に関する体力を測定・評価する④
- 第21回 専門競技に関する体力を測定・評価する⑤
- 第22回 研究の基本を学ぶ (3) プレゼンテーション (PowerPoint)
- 第23回 最高のパフォーマンスを発揮するためのトレーニング計画
- 第24回 最高のパフォーマンスを発揮するためのトレーニング内容
- 第25回 最高のパフォーマンスを発揮するためのコンディショニング
- 第26回 最高のパフォーマンスを発揮するための心理
- 第27回 最高のパフォーマンスを発揮するための栄養
- 第28回 最高のパフォーマンスを発揮するための戦略・戦術
- 第29回 最高のパフォーマンスを発揮するためのサポート体制
- 第30回 まとめ

【評価方法】

授業参加、発表、レポート、課題を総合的に評価する (100%)

【教科書】

競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望～実践と研究の場における知と技の好循環を求めて～.高松薫 (編). 筑波大学出版

【参考文献】

体力トレーニング論. 高松薫. 杏林書院

【特記事項】

競技スポーツを継続して実施している者、または過去に競技スポーツを実施していた者は、意欲的に取り組むことができる内容になっている。

総合教育演習

関 昭典

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

多様な他者との交流を通じたセルフリフレクション

【授業の形態・方法・内容】

ゼミ受講生、それ以外の学内生、学外者、外国人、異性など多様な他者との関係性を深めることにより、他者の暮らしや生き方、文化を理解し、授業受講者自身の内面を見つめ直す。ゼミ内での協働作業、ゼミ主催のイベント構築、他大学学生との協働作業、国外学生との協働作業など、様々な形式での交流活動に取り組むことにより学びを深め、自身を成長させる。

なお、遠隔授業となった場合には、C型(リアルタイム配信される授業)で実施する。

【到達目標】

- ・多様な他者との交流に向けて、必要とされる多文化理解力を身につけ、実行に移すことができる。
- ・交流場面において、様々な文化背景を持つ人々と円滑に交流できる。
- ・交流を通じて興味を持った観点を調査し、その成果を口頭発表しレポートにまとめることができる。
- ・多様な他者との交流の跳ね返りとしてセルフリフレクションを適切に行うことができる。
- ・企画力や発想力を高め、楽しみながら学べるイベントを企画することができる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

以下の学習項目に取り組む。目安は1日2時間程度。

- ・異文化・多文化コミュニケーションに関する学び
- ・他者との交流に向けた準備
- ・セルフリフレクションに向けた準備
- ・イベント等構築のための協働作業
- ・交流の報告に向けた準備
- ・企画力、発想力を高めるトレーニング
- ・個人発表に向けた準備
- ・交流するために必要な語学力を身につけるための授業外の個人学習

【授業計画】

第1回 <第一段階> ゼミ内の関係性の構築
オリエンテーション

第2回 <第一段階> ゼミ内の関係性の構築
ゼミ生内交流活動

- 第3回** <第二段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動の趣旨理解
「他者を通じたセルフリフレクション」手法の説明（講義）
- 第4回** <第二段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動の趣旨理解
過去の活動の動画視聴と解説（セルフリフレクション方法が多様であることを理解する）
- 第5回** <第二段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動の趣旨理解
過去の活動の動画視聴と解説（セルフリフレクション動画完成に至る手順とグループ別ディスカッションの運営方法を理解する）
- 第6回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Aさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第7回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Bさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第8回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Cさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第9回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Dさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第10回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Eさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第11回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Fさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第12回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Gさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第13回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動
ゼミ生Hさんの人生を自分を比較
【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出
- 第14回** <第三段階>「他者を通じたセルフリフレクション」活動

ゼミ生Iさんの人生を自分を比較

【手順】セルフリフレクション動画視聴➡ペア学生との対談視聴➡グループ別ディスカッション（ここまでで約3時間）➡後日レポート提出

第15回 海外ゼミ研修の準備活動

第16回 （以下、第16回～第19回の計画は夏季に海外ゼミ研修で他国の学生と交流活動ができた場合を想定している。）

＜第四段階＞多様な他者との交流を通じたセルフリフレクションの深化、多文化共生社会で求められるスキルを習得

他国、他大学学生との共同リサーチ（収集した資料の分析）

第17回 ＜第四段階＞多様な他者との交流を通じたセルフリフレクションの深化、多文化共生社会で求められるスキルを習得

他国、他大学学生との共同リサーチ（オンライン調査結果分析）

第18回 ＜第四段階＞多様な他者との交流を通じたセルフリフレクションの深化、多文化共生社会で求められるスキルを習得

オンライン調査発表会の準備

第19回 ＜第四段階＞多様な他者との交流を通じたセルフリフレクションの深化、多文化共生社会で求められるスキルを習得

調査発表会

第20回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
ゼミ主催報告イベントの準備

第21回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
報告イベントのリハーサル

第22回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
報告イベント開催（対面、もしくはオンライン開催）

第23回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
ゼミ研究発表会準備（1）グループ活動&個別作業

第24回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
ゼミ研究発表会準備（2）グループ活動&個別作業

第25回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
ゼミ研究発表会リハーサル

第26回 ＜第五段階＞多様な他者との交流を通じた学びの言語化
ゼミ研究発表会リフレクション

第27回 ＜第六段階＞ゼミ活動の成果発表（ゼミ主催イベント開催）
ゼミ主催公開勉強会「他者を通じたセルフリフレクション」（1）外部講師A氏招聘

第28回 ＜第六段階＞ゼミ活動の成果発表（ゼミ主催イベント開催）
ゼミ主催公開勉強会「他者を通じたセルフリフレクション」（2）外部講師B氏招聘

第29回 ＜第六段階＞ゼミ活動の成果発表（ゼミ主催イベント開催）
ゼミ主催公開勉強会「他者を通じたセルフリフレクション」（2）外部講師C氏招聘

第30回 年間授業の総括（レポート提出）

【評価方法】

以下5点を総合的に評価する（合計100パーセント）

1. イベントや国際交流活動へ向けた準備（発表内容、発表準備）
2. イベントや国際交流活動における取り組み姿勢、発表内容など
3. 個人発表、レポート
4. 交流言語の個人学習
5. 授業への参加状況

なお、授業内での発表や発言について、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

【特記事項】

1. 全学部とも学部のゼミとの両立が可能である。
2. 授業の一部を、学外実習として大学外で実施することがある。
3. 「異文化コミュニケーションa・b」の授業で得た知識を生かすことができる。
4. コロナの状況が許せば、夏季休暇中に東南アジアもしくは南アジア地域で海外ゼミ研修を開催する。
5. 海外交流研修に備え英語個人学習に意欲のある人が好ましい。

総合教育演習

高井良 健一

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ライフヒストリーの教育学—人生から学ぶ—

【授業の形態・方法・内容】

本ゼミナールは、ライフストーリー・インタビューによって、恩師の人生の物語を聞き取り、これをもとにライフヒストリーの作品を書き上げることを中心的な課題とする教育学のゼミナールである。本ゼミナールでは、一年をかけて個人での作品の執筆を行う一方で、毎回のゼミでは、受講生が関心をもっている教育諸問題についての議論と探究も行う。ゼミの活動内容は以下の通りである。

前期には、前年度のゼミ冊子ならびに教育学の論文を読み、教育や社会に関わるさまざまなテーマについてのディスカッションを行う。そして、インタビューならびにライフヒストリーの方法を学び、研究計画を作成する。続いて、夏休みにインタビューを行う。これまでの研究対象は、小中高時代の恩師がもっとも多いが、子どもを育てたり、未来をつくる仕事にかかわっている人であれば、これに限るものではない。

後期には、インタビューのデータを文書化したのち、ライフヒストリーの作品を作成し、ゼミで発表する。続いて、発表した作品を、ゼミの発表の際のコメントを参考にリライトして、完成させる。そして、冬合宿で校正・編集作業を行い、最終的にはゼミ冊子としてまとめる。また、毎回の授業において、ゼミ生の発表に対するフィードバックを行う。

本ゼミは、インタビューのアポイントメント、インタビュー、インタビューのトランスクリプトの作成、ライフヒストリーの作品執筆、研究発表、作品の加筆・修正、ゼミ冊子の校正と編集という一連のプロセスを通して、コミュニケーションから文章構成、プレゼンテーションといった総合的な知力を育てることを目的としている。その上で、尊敬する他者の人生と格闘することにより、自分のこれまでの歩みと現在、そしてこれから築いていく人生と向き合い、自分の成熟のイメージを探ることも目指している。作品を創り上げたときの達成感と温かいゼミの雰囲気は約束するが、それはゼミ生一人ひとりの真摯で誠実な学びを前提としていることもつけ加えておきたい。

なお、感染状況等により遠隔授業になった場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加する形式)にて授業を実施する。

【到達目標】

この科目は、「教養」に関する「基本的な知識と能力」を身に着けるための科目である(全学DP2)。その上で、本ゼミナールでは、本学のディプロマポリシーである社会科学に関する専門知識・能力(全学DP1)ならびに幅広い教養(全学DP2)、現代社会における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力(全学DP3)、そして、これらの知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力(全学DP4)を育むために、以下の到達目標を設定している。

到達目標は、他者の人生を探究することを通して、教育ならびに現代社会についての自らの鑑識眼を高めることである。より具体的には、この授業では、作品づくりの過程で、教養に関する基本的な知識と能力を身につける。さらには、教育・社会に関わるさまざまな問題を論じるための一貫性のある枠組み(フレーム)を身につける。そして、最終的には、教師や教育の専門家と

して生涯にわたって成長し続けるための教育と学びのヴィジョンと方法を身につけることを目指している。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

受講生は、ゼミの各回において、事前にテキストや受講生のライフストーリーの作品、インタビューの記録を熟読して、参加することが求められる。ゼミ・ブログの執筆も年に数回廻ってくる。また、インタビューのテープ起こしや作品を創るために、ゼミの時間外にまとまった作業や執筆のための時間を準備することが必要である。具体的には、毎週2時間程度の予習と、インタビューのテープ起こしに30時間、作品の執筆のために30時間が目安として求められる。ここから換算すると、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となる。「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたり、上記の事前事後学習時間は、この要件を満たしている。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（1）—ゼミの学びのヴィジョンとメンバーの紹介—

第2回 オリエンテーション（2）—ゼミの1年間の活動について—

第3回 カンファレンスの実践—聴くことと語ること

第4回 自分史を作成する（1）—学校経験の振り返り—

第5回 自分史を作成する（2）—自分の根っこを探る—

第6回 『教師のライフストーリー（22）』を読む（1）

第7回 『教師のライフストーリー（22）』を読む（2）

第8回 『教師のライフストーリー（22）』を読む（3）

第9回 ライフストーリーのためのPC講座

第10回 ディスカッション（1）—教育格差をどう考えるか—

第11回 ディスカッション（2）—これからの学校教育のヴィジョン—

第12回 ディスカッション（3）—これからの教師に求められること—

第13回 授業づくりと教師のライフストーリー

第14回 ライフストーリーの研究計画書を検討する（1）—研究の目的と方法—

第15回 ライフストーリーの研究計画書を検討する（2）—インタビュー項目の精選—

第16回 夏休みのインタビューと作品づくりの報告

第17回 授業から学ぶ（1）—子どもの声を聴くこと—

第18回 授業から学ぶ（2）—学び合いを創る—

第19回 授業から学ぶ（3）—教室文化を育てる—

第20回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（1）

第21回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（2）

第22回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（3）

第23回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（4）

第24回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（5）

第25回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（6）

第26回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（7）

第27回 教師のライフヒストリーの作品を発表する（8）

第28回 教師の人生と実践から学ぶ

第29回 ゼミ冊子の編集と校正

第30回 一年間のゼミ活動の振り返りとまとめ

【評価方法】

平常点（毎回のゼミへの参加・合宿等のイベントへの参加・ゼミでの発表ならびにコメント（50%）、ライフヒストリーの作品づくり・発表ならびにゼミ冊子づくり（50%）で総合的に評価する）

* 受講生のトランスクリプト作成、ライフヒストリー作成のモニタリングやフィードバックは、毎回のゼミで継続的に行う。

【教科書】

・『教師のライフヒストリー（22）』東京経済大学高井良ゼミナール

【参考文献】

- ・『教師のライフストーリー—高校教師の中年期の危機と再生』高井良健一（勁草書房）
- ・『「協働の学び」が変えた学校』金子奨・高井良健一・木村優（大月書店）
- ・『インタビューの社会学—ライフストーリーの聞き方—』桜井厚（せりか書房）
- ・『ライフヒストリーの教育学』グッドソン&サイクス著・高井良健一&山田浩之ほか訳（昭和堂）
- ・『教育学年報（1）～（10）』佐藤学ほか編著（世織書房）
- ・『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン』佐藤学（岩波書店）
- ・『学校を改革する』佐藤学（岩波ブックレット）
- ・『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
- ・『教師というアポリア』佐藤学（世織書房）
- ・『学びという快樂』佐藤学（世織書房）
- ・『公立中学校の挑戦—授業を変える学校が変わる』佐藤 雅彰・佐藤 学（ぎょうせい）
- ・『中学校における対話と協同—「学びの共同体」の実践』佐藤 雅彰（ぎょうせい）
- ・『学びの心理学』秋田喜代美（左右社）

【特記事項】

毎回のゼミへの出席は必須である。また、欠席の場合は連絡が必須である。新型コロナウイルスの感染状況次第だが、例年は、ゼミコンパや合宿を開催している。ゼミのイベントについて、日程の調整や各自の事情についての配慮は行うが、全員参加を原則としている。

総合教育演習

高津 秀之

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

世界遺産をめぐる歴史の旅

【授業の形態・方法・内容】

世界遺産・・・皆さんはテレビや新聞でその言葉を見たことがあるでしょう。しかし、そもそも世界遺産とは何でしょうか。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約にもとづき、人類の歴史の記憶が刻印された建築物や遺跡の数々が、世界遺産リストに登録されています。皆さんは世界遺産をどれだけ知っていますか。

本演習では世界各地の世界遺産を取り上げ、その歴史を学んでいきます。文部科学省後援の「世界遺産検定」合格を目指しながら、世界遺産をめぐる旅に出発しましょう。きっと一度は訪れてみたいという世界遺産に出会えます。なお、この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行います。授業内で発表していただき、その都度フィードバックを行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料などに基づいて学習するA型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせた形式)で授業を実施します。

【到達目標】

世界遺産に関する歴史的な知識を学びます。なお受講者には年度内に最低1回、「世界遺産検定」を受験していただきます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。具体的には、1. 発表の準備と、2. 文献講読の予習を行って下さい。

1. 発表準備： 毎回2～3の研究発表（前期はグループ発表・後期は個別発表）と質疑応答を行います。担当者は発表の準備をし、レジュメを作成して下さい。他の参加者も関連文献を事前に読んでおいて下さい。

2. 文献講読の予習： 演習の内容にかかわる概説書を講読します。事前に該当部分を精読してから演習に臨んで下さい。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 グループ発表と質疑応答・文献講読 1

第3回 グループ発表と質疑応答・文献講読 2

- 第4回 グループ発表と質疑応答・文献講読 3

- 第5回 グループ発表と質疑応答・文献講読 4
- 第6回 グループ発表と質疑応答・文献講読 5
- 第7回 グループ発表と質疑応答・文献講読 6
- 第8回 グループ発表と質疑応答・文献講読 7
- 第9回 グループ発表と質疑応答・文献講読 8
- 第10回 グループ発表と質疑応答・文献講読 9
- 第11回 グループ発表と質疑応答・文献講読10

- 第12回 グループ発表と質疑応答・文献講読11

- 第13回 グループ発表と質疑応答・文献講読12

- 第14回 グループ発表と質疑応答・文献講読13

- 第15回 総括討論
- 第16回 ガイダンス
- 第17回 個別発表と質疑応答・文献講読 1
- 第18回 個別発表と質疑応答・文献講読 2
- 第19回 個別発表と質疑応答・文献講読 3
- 第20回 個別発表と質疑応答・文献講読 4
- 第21回 個別発表と質疑応答・文献講読 5
- 第22回 個別発表と質疑応答・文献講読 6
- 第23回 個別発表と質疑応答・文献講読 7
- 第24回 個別発表と質疑応答・文献講読 8
- 第25回 個別発表と質疑応答・文献講読 9
- 第26回 個別発表と質疑応答・文献講読10
- 第27回 個別発表と質疑応答・文献講読11
- 第28回 個別発表と質疑応答・文献講読12
- 第29回 個別発表と質疑応答・文献講読13
- 第30回 総括討論

【評価方法】

授業参加点（30%）、課題に対する発表内容（50%）、質疑応答での発言・態度（20%）で総合評価を行います。

【教科書】

『はじめて学ぶ世界遺産50 世界遺産検定4級公式テキスト』（世界遺産検定事務局）

『きほんを学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト』（世界遺産検定事務局）

【参考文献】

必要に応じて授業中に指示します。

【特記事項】

世界遺産検定については、下のウェブサイトも参照して下さい。

<https://www.sekaken.jp/>

総合教育演習

竹内 秀一

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

教養としてのデータサイエンス演習

【授業の形態・方法・内容】

●授業の形態：この授業は演習形式で、個人研究やグループワークを行います。また、研究成果を授業内で発表してもらいます。

●授業の方法・内容：データサイエンス（Data Science: DS）において必要となる統計学の基礎を学び、その知識を利活用してデータ分析の基本を修得することがこの授業の目的です。統計学の手法に関わる基礎的な内容を教科書[1]の輪読（授業計画のD1～D7の項目）を通して学び、データ分析（授業計画のX1～X13の項目）については教科書[2]（コンピュータ・リテラシー応用Iの教科書）に基づいてExcelを利用した応用的な演習を行います。より高度なデータ分析を行う場合は、オープンソース・フリーソフトウェアのRあるいは社会科学分野でよく利用されるSPSSにより演習を行うこともあります。

授業内での輪読・レポート（課題等）については、個別のフィードバックを行い、テーマごとに総括的なフィードバックも追加します。また、授業内での発表（その準備を含む）については、その都度、フィードバックを行います。

●遠隔授業となった場合の授業形態：遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。補足的に、授業内容（あるいは追加的な項目内容）を録画した動画によるB型で実施する場合があります。その場合は、manabaに質疑応答と授業（あるいは補足内容）に関する意見交換の場を設けます。

【到達目標】

この授業では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」で定められた内容を十分に理解したうえで、一般財団法人「統計質保証推進協会」が主催（日本統計学会公式認定・総務省後援・文部科学省後援・経済産業省後援・内閣府後援・厚生労働省後援）する「統計検定2級」レベル（大学基礎科目レベルの統計学の知識の習得度と活用のための理解度を問うために実施される検定）の知識とデータ分析能力を身につけることが目標となります。詳しい内容は統計検定のウェブページ <https://www.toukei-kentei.jp/exam/grade2/> を参照してください。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。

具体的には、毎回の授業で取り上げる項目（授業計画の統計学に関するD1～D7の項目については教科書[1]を毎回10～15ページ程度、授業計画のExcelによるデータ分析に関するX1～X8の項目については教科書[2]を毎回10～20ページ程度）について教科書を事前に読んでおいてく

ださい。わからない用語や計算方法の途中経過の確認などについては、各自で予習をしておいてください。また、授業の後は、授業の中で紹介した参考文献を読み、授業の内容を復習しておいてください。授業時間の2倍程度の授業外学習が必要となります。

授業計画後半のExcelによるデータ分析に関するX9～X13の項目において、「発表準備」については、レポート（中間・期末）の内容および要点を再確認しながら、発表の準備を入念にしてください。特に「発表」においては、PowerPointによるプレゼンテーションを予定していますので、各自でスキルアップするように努めてください。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

D1：データの記述と要約（1） ・ X1：データ入出力（1）

第2回 D1：データの記述と要約（2） ・ X1：データ入出力（2）

第3回 D1：データの記述と要約（3） ・ X2：基本統計量（1）

第4回 D2：確率と確率分布（1） ・ X2：基本統計量（2）

第5回 D2：確率と確率分布（2） ・ X3：グラフ作成（1）

第6回 D2：確率と確率分布（3） ・ X3：グラフ作成（2）

第7回 D3：統計的推定（1） ・ X4：クロス集計（1）

第8回 D3：統計的推定（2） ・ X4：クロス集計（2）

第9回 D3：統計的推定（3） ・ X5：データ分析基礎（1）

第10回 D4：統計的仮説検定（1） ・ X5：データ分析基礎（2）

第11回 D4：統計的仮説検定（2） ・ X6：データ分析（1）

第12回 D4：統計的仮説検定（3） ・ X6：データ分析（2）

第13回 D5：線形モデルの分析（1） ・ X7：データ分析応用（1）

第14回 D5：線形モデルの分析（2） ・ X7：データ分析応用（2）

第15回 D5：線形モデルの分析（3） ・ X8：データ分析総括
中間（夏休み）レポートの出題

第16回 中間（夏休み）レポートの提出

D6：その他の分析法（1） ・ X9：中間レポート発表準備（1）

第17回 D6：その他の分析法（2） ・ X9：中間レポート発表準備（2）

第18回 D6：その他の分析法（3） ・ X10：中間レポート発表（1）

第19回 D7：付録（1） ・ X10：中間レポート発表（2）

第20回 D7：付録（2）

中間レポート総括および期末レポートの出題

第21回 X11：期末レポート作成（1）

第22回 X11：期末レポート作成（2）
期末レポート中間報告

第23回 X11：期末レポート作成（3）

第24回 X11：期末レポート作成（4）
期末レポートの提出

第25回 X12：期末レポート発表準備（1）

第26回 X12：期末レポート発表準備（2）

第27回 X12：期末レポート発表準備（3）

第28回 X13：期末レポート発表（1）

第29回 X13：期末レポート発表（2）

第30回 X13：期末レポート発表（3）および期末レポート総括

【評価方法】

授業参加点（約45%）、テーマ課題および中間レポート（約30%）、期末レポート（約25%）を基にして総合的に評価する。

【教科書】

- [1]日本統計学会 編「改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎」東京図書
- [2]コンピュータ・リテラシー研究会[編]「改訂版 データ分析の基礎」サンウェイ出版（「コンピュータ・リテラシー応用 I」の教科書）

【参考文献】

- [1]日本統計学会 編「改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析」東京図書
 - [2]日本統計学会 編「改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 データの活用」東京図書
 - [3]北川源四郎・竹村彰通編 内田誠一・川崎能典・考中大輔・佐久間淳・椎名洋・中川裕志・樋口知之・丸山宏著「教養としてのデータサイエンス」講談社
 - [4]竹村彰通著「データサイエンス入門」岩波書店
 - [5]篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析入門[第3版]」サイエンス社（「数理の科学II」の教科書）
- その他にも、授業中に追加することがあります。

【特記事項】

[1]この授業では、データサイエンス・スタンダード（DSS）科目を少なくとも4単位以上単位修得していることを前提に進めていく予定です。できれば、DSSの認定を受けている（修了している）ことが望ましい。

[2]「コンピュータ・リテラシー応用I」および「数理の科学IIa・IIb」も単位修得済みであることが望ましい。

[3]在学中に「統計検定2級」に合格することが理想的です。さらに、上位の「統計検定準1級」や「統計検定1級」の合格を目指す場合は、以下の参考書を基にしてサブゼミを行う場合があります。

(1)日本統計学会 編「日本統計学会公式認定 統計検定準1級対応 統計学実践ワークブック」
学術図書出版社

(2)日本統計学会 編「日本統計学会公式認定 統計検定1級対応 統計学」東京図書

総合教育演習

田中 景

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

映画シナリオから学ぶ多文化共生

【授業の形態・方法・内容】

この授業は、グループワークや個人研究を行う演習形式の授業です。特にこの授業ではアメリカの映像作品『クレイマー、クレイマー』（1974年）のシナリオを輪読します。そのことを通して、以下の点について学びます。

- ・個人の自己や役割の発達について学ぶ
- ・アメリカ社会における対抗文化の発展について学ぶ
- ・日常生活における多文化共生の実践について考察する

具体的には、英語で書かれたシナリオを毎週、輪読・翻訳し、ディスカッションを通して物語に描かれている民族、ジェンダー、階級などを軸に形成される文化や登場人物のアイデンティティを読み解きます。さらに、文化やアイデンティティの理解を深めるために、ピアレクチャーを通して個人の発達とアメリカ社会における対抗文化の発展について学びます。また、授業内でのピアレクチャーやレポートについては、個別のフィードバックを行います。

遠隔授業に変更になった場合、Zoomを使って行います（C型）。

【到達目標】

この科目では以下の3点を到達目標とします。

- ・英語の日常会話文と説明文を読解することができる
- ・個人と個人を取り巻く特定社会の発達について知識を得る
- ・日常生活における多文化共生の実践について意見を持つ

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

事前学習

1. テキストをよく読み、分からない語彙や表現を調べる
2. 内容や状況を理解する上で必要な背景を調べる
3. 自分の意見をまとめておく

事後学習

1. 授業で読んだテキストの箇所をまとめる
2. ディスカッションを通して深まった自分の意見やあらたな視点をまとめる

これらの事前・事後学習には1回の授業あたり4時間程度の学習が必要となります。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（授業の説明；役割分担；英文の読み方）
- 第2回 シナリオ第1集（輪読とディスカッション）
- 第3回 シナリオ第2集（輪読とディスカッション）
- 第4回 シナリオ第3集（輪読とディスカッション）
- 第5回 ピアレクチャー「自己の発達と役割」 1
- 第6回 ピアレクチャー「自己の発達と役割」 2
- 第7回 ピアレクチャー「自己の発達と役割」 3
- 第8回 シナリオ第4集（輪読とディスカッション）
- 第9回 シナリオ第5集（輪読とディスカッション）
- 第10回 シナリオ第6集（輪読とディスカッション）
- 第11回 ピアレクチャー「1950年代アメリカの規範」
- 第12回 ピアレクチャー「1960年代アメリカの対抗文化」
- 第13回 ピアレクチャー「エスニック・リバイバルと女性の権利運動」
- 第14回 シナリオ第7集（輪読とディスカッション）
- 第15回 シナリオ第8集（輪読とディスカッション）
- 第16回 シナリオ第9集（輪読とディスカッション）
- 第17回 シナリオ第10集（輪読とディスカッション）
- 第18回 シナリオ第11集（輪読とディスカッション）
- 第19回 シナリオ第12集（輪読とディスカッション）
- 第20回 レクチャー「家族法とジェンダー規範」
- 第21回 シナリオ第13集（輪読とディスカッション）
- 第22回 シナリオ第14集（輪読とディスカッション）
- 第23回 シナリオ第15集（輪読とディスカッション）
- 第24回 シナリオ第16集（輪読とディスカッション）
- 第25回 シナリオ第17集（輪読とディスカッション）
- 第26回 シナリオ第18集（輪読とディスカッション）
- 第27回 シナリオ第19集（輪読とディスカッション）
- 第28回 シナリオ第20集（輪読とディスカッション）
- 第29回 映像視聴
- 第30回 ディスカッション；レポートの提示

【評価方法】

授業への参加（50%）、期末レポート(30%)、ピアレクチャー（20%）

【教科書】

担当教員が作成したシナリオを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業内で指示する。

【特記事項】

履修条件

1. 欠席は年間6回までとし、遅刻3回につき欠席1回と見なす。演習という授業の性格上、無断

欠席や土壇場での欠席は絶対にしないこと。

2. 積極的かつ責任をもって授業に参加すること。テキストを受動的に読むのではなく、自律的に

学習し、意欲的にディスカッションやピアレクチャーに参加すること。

総合教育演習

対馬 輝昭

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

英語によるスピーチ/プレゼンテーションの体系的理解と実践演習

【授業の形態・方法・内容】

英語のスピーチを書くさいに、全体の構成を組み立て、さらに各パラグラフの構成を考えるのが難しいと感じたことがないでしょうか。スピーチで自分の意見・考えを明確に相手に伝えるためには英語独特の構成法に関する知識が必要です。しかし、それらを体系的に学び理解することは自力ではなかなか困難なものです。この授業は演習形式で、言語学、また修辞学（レトリック）の知見を用いてスピーチの構造を分析する知識・能力を養成します。また、その知識・能力を生かしながらスピーチ原稿を作成し、より効果的にスピーチやプレゼンテーションを行う能力を高めることを目的とします。特に、Persuasive Argumentと呼ばれる、聴者に話者の考えを納得させ、それによってある行動を起こさせるスピーチに焦点をあてたいと思います。例えば、環境問題の重要性を説明し、聴者に環境のための具体的な行動をとるよう説得するスピーチが一例となります。また、Discussion、Show and tell、Impromptu speech（即興のスピーチ）なども行いながら発話力を高める練習もします。さらに必要に応じて発音個人指導も行います。

（重要）スピーチやプレゼンテーションを実際に行うことを最終目的とし、それに関わるいろいろな側面を学ぶ形としたいので、原則として学外・学内のスピーチ/プレゼンテーションコンテストに一度は参加することを単位修得の条件とします。

英語を使った発話能力を高めたい、英語を使って自己表現し、英語力を伸ばしたいと思っている人を歓迎しますが、単にそれを練習するだけではないので注意して下さい。英文講読、英作文も重要な部分を占めます。発話力養成のためには母国語を使わずその言語のモードに入ることが重要なので、授業中一定時間英語のみしか使わないこととします。（長期休業期間を含む）課題が出されますのでそれを理解して応募して下さい。従って、最低限の英語力（特記事項参照）、コンピュータ使用能力が必要となる他、1年間やり抜く決意のもと応募して下さい。

所属学生の意向を聞き、さらに様々な条件が整えば海外ゼミ研修を行います。例年2月にシンガポールで実施しています。しかし研修への参加は必須ではありません。

この演習の内容は1年単位とします。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

- 1) 英語によるスピーチ構造を理解し、その知識を基礎としてスピーチライティングができるようになること。
- 2) 音声やジェスチャーを効果的に使ってスピーチをする技術を身につけること。
- 3) 上の活動を通して、自分の意見や感情を伝えることの重要性、またその喜びを学ぶこと。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

英語の基本的な能力（聴解、読解）を継続して伸ばす学習をすること。例えば、英語ニュースをインターネットやテレビで聴取する。英字新聞や英語のエッセー・小説を読む等。授業中、または授業外で、直接、またオンラインでフィードバックをします。また、毎回4時間程度の授業外学習時間を必要とします。

【授業計画】

第1回 参加者の数、参加者の英語力によって学習項目の順番を決定します。

The Core of an Argument (1): A Claim with Reasons

第2回 The Core of an Argument (2): A Claim with Reasons

第3回 The Logical Structure of Arguments (1)

第4回 The Logical Structure of Arguments (2)

第5回 Using Evidence Effectively (1)

第6回 Using Evidence Effectively (2)

第7回 Moving Your Audience (Ethos, Pathos, and Kairos)(1)

第8回 Moving Your Audience (Ethos, Pathos, and Kairos)(2)

第9回 Accommodating Your Audience: Treating Differing Views (1)

第10回 Accommodating Your Audience: Treating Differing Views (2)

第11回 Conducting Visual Arguments (1)

第12回 Conducting Visual Arguments (2)

第13回 Presentation (1)

第14回 Presentation (2)

第15回 Review & Conclusion

第16回 Introduction to Delivery

第17回 Eye Contact/Gesture

第18回 Prosody and Pause

第19回 PowerPoint (1)

第20回 PowerPoint (2)

第21回 Practice for the 4-minute presentation (1)

第22回 Practice for the 4-minute presentation (2)

第23回 Filming the 4-minute presentation (1)

第24回 Filming the 4-minute presentation (2)

第25回 Practice for the 10-minute presentation (1)

第26回 Practice for the 10-minute presentation (2)

第27回 Practice for the 10-minute presentation (3)

第28回 Preparation for the study-abroad activities (1)

第29回 Preparation for the study-abroad activities (2)

第30回 Review & Conclusion

【評価方法】

課題提出 (30%)

プレゼンテーション(40%)

授業参加状況 (30%)

前述のとおり、原則として学内・学外のスピーチ・プレゼンテーションコンテストに出場することを単位修得の条件とします。

ゼミの性格上、課題提出と授業参加が不可欠です。期限以内の課題提出を3回以上怠ったもの、3回以上無断で欠席したのものには単位を与えません。

【教科書】

Present Yourself: Viewpoint 2. Gershon. Cambridge University Press.

【参考文献】

Ramage, J. D., Bean, J. C. & Johnson, J. (2007) Writing Arguments. Pearson, Longman.
Atkinson, M. (2004) Lend Me Your Ears. Vermillion.

【特記事項】

Public Speaking (speech, presentation)に興味があり、TOEIC 450点、CASEC 550点以上のスコア、さらに基礎的コンピュータ使用能力（Word, Excel, Powerpoint）を持つ学生の受講を奨励します。また、募集時に面接と筆記試験を行います。

総合教育演習

寺島 瞳

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

心理的援助の実際について学ぶ

【授業の形態・方法・内容】

経済的な豊かさの陰で心の問題が深刻化しています。そこで、心の問題を扱う心理的援助の実際について、知識・情報を身につけることを本ゼミの基本課題とします。

具体的には、さまざまな心理的援助の事例やその対応法について、公開されている書籍、論文、映像資料などを基に学んでいきます。また、可能であれば現場に実際に出て、施設見学やボランティアなどを行うことで体験的に学ぶことも目指します。よって主体的、積極的に学ぶ姿勢が求められます。また、これらの学びを通して研究によって探求したい課題が生じた場合には、グループ研究を並行して行う場合もあります。

この授業は演習形式で進めます。与えられた資料や課題を個人もしくは数名のグループでまとめて発表をします。発表内容について、その他のメンバーとの議論や教員からの補足を通じて理解を深められるように進めていきます。授業内での発表についてはその都度、フィードバックを行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、B,C型(あらかじめ授業内容を録画した動画によるB型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせ形式)で授業を実施します。

【到達目標】

この科目は、臨床心理学分野の基本的な知識を身に着けることを目指しています。

到達目標の詳細は以下の通りです。

- (1) 心理的援助の実際について事例をもとに理解を深める。
- (2) 他者や自己を理解し、サポートする力を身に着ける。
- (3) 多様な価値観があることを理解し、論理的に思考できるようになる。
- (4) 人前でプレゼンテーションをする力や、建設的なディスカッションをする力を養う。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

与えられた課題について、発表者は事前に発表資料を作成してください。割り当てられた発表をしなかった場合は不可となります。発表者以外も自分なりに考えをまとめておきましょう。当日の発表やディスカッションをもとに、毎回、ゼミの後には各自が振り返りの小レポートを作成します。

「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。

【授業計画】

第1回 演習の進め方/発表者の決定等

第2回 心理的援助とは（1）

第3回 心理的援助とは（2）

第4回 心理的援助とは（3）

第5回 心理的援助とは（4）

第6回 心理的援助とは（5）

第7回 事例から学ぶ（1）

第8回 事例から学ぶ（2）

第9回 事例から学ぶ（3）

第10回 事例から学ぶ（4）

第11回 事例から学ぶ（5）

第12回 事例から学ぶ（6）

第13回 事例から学ぶ（7）

第14回 事例から学ぶ（8）

第15回 前期の総括

第16回 発表者の決定等

第17回 事例から学ぶ（1）

第18回 事例から学ぶ（2）

第19回 事例から学ぶ（3）

第20回 事例から学ぶ（4）

第21回 事例から学ぶ（5）

第22回 現場/研究から学ぶ（1）

第23回 現場/研究から学ぶ（2）

第24回 現場/研究から学ぶ（3）

第25回 現場/研究から学ぶ（4）

第26回 現場/研究から学ぶ（5）

第27回 現場/研究から学ぶ（6）

第28回 現場/研究から学ぶ（7）

第29回 現場/研究から学ぶ（8）

第30回 全体の総括

【評価方法】

- ・授業に3分の2以上出席していることを単位取得の条件とする。
- ・授業内での取り組み姿勢（80%）、発表内容（20%）により評価する。
- ・割り当てられた発表をしなかった場合は不可とする。

【教科書】

以下を考えていますが、変更になる可能性もあります。

- ・青木省三・村上伸治（2015）. 大人の発達障害を診るということ：診断や対応に迷う症例から考える 医学書院
- ・青木省三・村上伸治・鷺田健二（2021）. 大人のトラウマを診るということ：こころの病の背景にある痛みに気づく 医学書院

【参考文献】

授業内で紹介します。

【特記事項】

- ・心理学関連の授業を履修済みであることが望ましい。
- ・初回の授業には必ず出席すること。
- ・パワーポイントを用いて発表するため使えるようになっておくこと。
- ・各自が積極的に議論に参加すること。
- ・授業で取り上げる内容やスケジュールを調整する場合がある。
- ・授業の一部を学外実習として大学外で行う場合もある。
- ・課題に対するフィードバックは演習内やmanabaを通じて行う。

総合教育演習

寺田 佳孝

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

自分の興味関心あるテーマを見つけ、調べる、そして議論する

【授業の形態・方法・内容】

この授業は大きく2つのねらいがあります。1. 政治・社会、文化、海外事情、教育・学校、地域の課題等、自分の興味・関心のあるテーマを見つけ、それについて考え、自分なりの意見を持つようにする、2. 1. でまとめたテーマについて、他の人に説明し、互いに議論する（もちろん教員相手に徹底的に政治・社会問題等について議論したい人も可です）。つまりこの授業は、「自分が大学時代に取り組みたいテーマを見つけ、追究する」とことと「他人に分かりやすく説明し、互いに議論できるようになる」（あるいは希望者は「担当教員と政治・社会等の問題について徹底的に話をする」）ことを目標にしています。

大学では多くの講義等を通じて、様々な考え方やテーマに触れることができます。他方で、自分にとって本当に興味あるテーマ、大学生活を通じて追いかけてみたい、調べてみたいテーマを見つけることは、実はなかなか難しいことです。そうしたテーマ追究の1つの方法は、とにかく自分が興味を持ったモノ・コトについてまとめて調べ、発表し、他のメンバーと話をしてみることです。この作業をいくつものテーマで繰り返すなかで、自分にとって本当に興味のあることが絞られていきます。

こうして自分の興味関心が定まってきたら、次はそれを他の人に分かりやすく説明します。「必ずしも関心を持っていない人に、自分のテーマを分かりやすく説明する」というのは、はじめは難しいことですが、繰り返すなかで、上手な説明方法が身についていきます。さらに、説明の後には、皆でそのテーマについて話し合い、議論することになります。せっかく自分の興味あるテーマがあっても、それを他人と突き詰めて議論する機会は、非常に限られています。それを提供するのが、このゼミの時間でもあります。

以上の活動を通じて、物事を説明する力、そして議論する力やその姿勢を学んでいきます。

なお、担当教員が専門としているテーマは「ドイツの政治教育」「ドイツやトルコなど海外の政治・社会問題」「広く日本の教育問題」「最近の政治・社会時事」などですが、受講者は必ずしもこれらのテーマを扱う必要はありません。実際、過去数年間の受講者のテーマとしては、日本・海外の政治問題、若者文化、音楽、映画、小説（文学）など、多様な内容がありました。ただし経済問題は担当教員の専門ではありませんので、経済や経営に興味がある人は、本ゼミではなく各学部のゼミを推奨します。

授業形態について、この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行います。具体的には、興味のある本の内容報告、ゼミの場での議論、自分のテーマの説明準備、他のメンバーあるいは担当教員との議論などの活動があります。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

本ゼミの大目標は、以下の3点です。

1. 政治・社会、文化、海外事情、学校、小説等、自分の興味・関心のあるテーマを見つけ、自分なりに考え、意見を持つことができる
2. 1. のテーマについて、資料を用いて他の人に分かりやすく説明することができる
3. 授業内で提起されたテーマ（自分および他のメンバー）について、主体的に考え、議論することができる

前期・後期の具体的な目標は、以下の通りです。

（前期）

1. 文献発表と話し合いを通じて、自分のテーマを見つける
2. 授業内で提起されたテーマについて、互いに議論する能力・姿勢を身につける

（後期）

1. 自分のテーマを見つけ、それを一定程度調べ、自分なりの意見を持つ（実践活動）
2. 授業内で提起されたテーマについて、より深く議論するための能力・姿勢を身につける

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

報告担当者は、課題文献や自らの課題について関連内容をまとめ、プリントを作成する等の準備をしてもらいます。また報告者以外の受講者も課題について調べておく等の事前学習が必要です。

合わせて毎回、4時間程度の事前、事後学習が必要になります。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 自己紹介、授業方法・関連事項の決定

- ※ 以下各回の授業予定は、参加者数、興味関心によって変更することがあります。
- ※ なお、受講者の報告・意見等についてはその都度フィードバックをします。

第2回 テーマ発表(1) 報告と話し合い

第3回 テーマ発表(2) 報告と話し合い

第4回 テーマ発表(3) 報告と話し合い

第5回 テーマ発表(4) 報告と話し合い

第6回 テーマ発表(5) 報告と話し合い

第7回 テーマ発表(6) 報告と話し合い

第8回 関連文献の検討(1) 自分のテーマの背景の検討

第9回 関連文献の検討(2) 自分のテーマの背景の検討

第10回 関連文献の検討(3) 自分のテーマの背景の検討

第11回 関連文献の検討(4) 自分のテーマの背景の検討

第12回 自己課題の発表(1) 報告と話し合い

第13回 自己課題の発表(2) 報告と話し合い

第14回 自己課題の発表(3) 報告と話し合い

第15回 自己課題の発表(4) 報告と話し合い

第16回 テーマ発表(1) 報告と話し合い

第17回 テーマ発表(2) 報告と話し合い

第18回 テーマ発表(3) 報告と話し合い

第19回 テーマ発表(4) 報告と話し合い

第20回 テーマの検索・深化と再発表(1)

第21回 テーマの検索・深化と再発表(2)

第22回 テーマの検索・深化と再発表(3)

第23回 テーマの検索・深化と再発表(4)

第24回 テーマの検索・深化と再発表(5)

第25回 テーマの検索・深化と再発表(6)

第26回 自分のテーマの確定と発表、議論(1)

第27回 自分のテーマの確定と発表、議論(2)

第28回 自分のテーマの確定と発表、議論(3)

第29回 自分のテーマの確定と発表、議論(4)

第30回 自分のテーマの確定と発表、議論(5)

【評価方法】

授業中の学習活動（報告内容、話し合いへの参加等。70%）、最終レポート（30%）で総合評価を行います。

【教科書】

開講時、あるいはその都度、授業で提示します。

【参考文献】

開講時、あるいはその都度、授業で指示します。基本的に自分の興味あるテーマに関する著書や記事などが各自の参考文献となります。過去数年の例では、受講者の関心によって政治、社会、文化、音楽、映画、教育、思想、海外事情など、多様なテーマが登場しています。

それ以外に、たとえば次のような著書があります。

大澤聡『教養主義のリハビリテーション』筑摩書房、2018年

【特記事項】

受講を検討される方は、以下の点をご確認願います。

1. 毎回授業に参加するのが基本です（無断欠席は厳禁、即不可です）。やむを得ない理由で欠席の場合は、本人の直接連絡が必須です。
2. 授業での報告は、報告者の過重な負担とならないように事前に受講者と相談し、テーマを決めます。
3. その他の事項については、初回、受講者と相談して決める予定です。なお、受講者数や関心に応じて、授業の進め方や扱う内容を変更することもあります。

その他、授業内容、授業の進め方、受講の是非等について疑問のある方は、直接教員までお問い合わせください。

総合教育演習

戸邊 秀明

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

「戦争を選ぶ論理」を考える：日本近代史を通じた検証

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で行う。テキストの輪読や映像作品の分析に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせる。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施する。

戦争はなぜ、いかなる経緯で起こるのか。2023年度演習では、この問いを、近代日本がたどった歴史を鑑として考える機会としたい。

ロシアによるウクライナ侵攻によって、私たちはいま、戦争を防ぐためのさまざまな仕組みも、いざとなればいかに脆いかを目撃している。膨大な犠牲や暴力が、あまりにもあっけなく始まってしまったことも、知ってしまった。しかし、この一連の出来事は、あくまで為政者の決断によってなされた行為である以上、自然現象でも、感傷的な悲劇でもなく、政治的行為の結果として、責任を問われる。では、為政者が戦争を選ぶ時、それはどのような判断の積み重ねによって、決断に導かれるものなのか。

いま、ロシアとウクライナの間で起こっている戦争を見て、東アジアでも起こるぞと、危機を叫ぶ声が聞こえる。この場合、戦争は常に日本の外からやってくると想定されている。しかし、この150年を振り返る時、アジアで起こった危機の責任、侵略の行為者とは、むしろ日本の方であった。この歴史を知らずに危機を叫んで、いったい誰が、本当の意味で日本を助けてくれるだろうか。では、日本の外に打って出て武力を行使し続けてきた日本の近代史は、なぜこれほど忘却されてしまったのだろうか。

自分たちの国の為政者がした過去の失敗の歴史を、痛恨の思いとともに振り返り、彼らがなぜ戦争という手段を選んだのか、その根源を突き止めることなしに、反省といい、謝罪といっても、真実味はないだろう。私たちは幸い、この問題について徹底的に考察した著作を、すでに知っている。それは歴史家の加藤陽子による一連の著作である。戦争は常に誰かが何かの理由づけ、つまりは正当化をして始める。では、ほぼ10年ごとに戦争を繰り返してきた近代日本にとり、その時々の「戦争を選ぶ」際の論理は、いかなるものだったのか。この問いを、高校生に向けて問かけ、語り合った加藤の著作は、読みやすいなかにも、考えさせる示唆に富んでいる。それらは刊行時から話題となり、すでに多くの読者に迎えられているが、新たな戦争を目の当たりにしたいいま、いまほど繚くにふさわしい時機はない。そこで自分たちの足下に連なる日本の近代史を、「戦争を選ぶ論理」に即して学んでみたい。

なお、1期・2期を通じた授業のやり方は以下の通りである。

【前期＝1期】

- * ガイダンスの後、報告担当者を決めて教科書＝指定文献を輪読していく。
- * 授業内での発表については、その都度、フィードバックを行う。報告の方法やレジュメの作り方などについても随時指導する。（以上は後期も同様）

* 夏季休暇中に、教科書に関する書評レポートを作成、提出してもらう。

【後期 = 2期】

* 前期開始時に、夏季休暇中のレポートについて全員で検討し、講評によってフィードバックを行う。

* 前期と同様、文献を講読していく。

* 後期は同時に、12月上旬に開催予定のゼミ報告会への発表に向けた議論と準備作業に数回を充てる。

* 今年度のテーマをめぐって考えたことを、期末レポートとして作成、提出してもらう。

【到達目標】

特に、以下の諸点を目標として取り組むものとする。

1. 日本の現代史に関する基本的な知識を得られるようにする。
2. 具体的な歴史資料にふれて、過去の人々の感じ方、考え方をつかめるようにする（資料読解能力の向上）。
3. 特定の主題を通じた歴史の学習の意義と特質について理解し、自身で学習を進められるようにする。
4. 資料（文字・映像）の「読み方」について、報告・討論の繰り返しによって習得できるようにする。
5. 参加者が自身の考察を適切に発表し、それをもとにレポートが作成できるようにする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたるため、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度である。特に以下の項目については、自身の報告の有無にかかわらず、毎回実施すること。

1. テキスト講読範囲について、討論の際に発言する材料として、自分がテキストから得た知識および疑問点をあらかじめまとめておくこと。
2. 討論の際、テキストの内容と関係する日々の事件や出来事との関わりで意見を求める場合があるため、日常的に関心をもって報道に接し、情報収集に努めること。

【授業計画】

第1回 ガイダンス1（授業の要領の紹介、参加者自己紹介等）

第2回 ガイダンス2（関連映像の視聴、分担決定）

第3回 講読A 戦争が産み出す歴史

第4回 講読B 歴史的なものの見方とは何か

第5回 講読C 日清戦争・その1：戦前の日中関係

第6回 講読D 日清戦争・その2：戦争はなぜ起きたのか

第7回 講読E 日露戦争：開戦理由と決断の背景

第8回 講読F 第一次世界大戦・その1：参戦の論理

第9回 講読G 第一次世界大戦・その2：戦後日本外交の挫折

第10回 講読H 満洲事変から日中戦争へ・その1：作戦計画の背景

- 第11回 講読 I 満洲事変から日中戦争へ・その2：連盟脱退へ
- 第12回 講読 J 太平洋戦争への道・その1：日中戦争拡大の要因
- 第13回 講読 K 太平洋戦争への道・その2：開戦決断と戦争の諸相
- 第14回 講読 L あらためて、歴史と現在の関係を考える
- 第15回 講読 M あらためて、国家と歴史の関係を考える／夏季レポート作成指導、後期の分担決定
- 第16回 夏季レポートの発表・講評・討論、前期に関する総括討論（分担確認）
- 第17回 講読 N 満洲事変とリットン報告書
- 第18回 講読 O 連盟脱退への道
- 第19回 講読 P 三国軍事同盟の選択理由
- 第20回 講読 Q 三国軍事同盟の締結過程
- 第21回 講読 R 日米交渉では何が問題になったのか
- 第22回 講読 S 太平洋戦争開戦決定への道程
- 第23回 講読 T 敗戦と憲法
- 第24回 ゼミ報告会発表準備①
- 第25回 ゼミ報告会発表準備②
- 第26回 ゼミ報告会発表準備③
- 第27回 関連映像の視聴と分析 1 日中戦争に関する映像作品の分析
- 第28回 関連映像の視聴と分析 2 三国軍事同盟に関する映像作品の分析
- 第29回 関連映像の視聴と分析 3 太平洋戦争開戦決定過程に関する映像作品の分析
- 第30回 年間の総括討論、期末レポート作成指導

【評価方法】

1. 平常点 60%（レスポンスシートの内容、担当部分の発表内容や司会運営、毎回の議論への参加等を総合的に評価）

* 毎回授業終了時に感想・意見等をレスポンスシートに記入・提出することで出席とみなす。

2. レポート 40%（前後期末、計2回）

* 以上の合計点によって評価する。

【教科書】

1. 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年 [ISBN 9784255004853]

2. 加藤陽子『戦争まで：歴史を決めた交渉と日本の失敗』朝日出版社、2016年 [ISBN 9784255009407]

【参考文献】

* 授業中に適宜紹介する。

【特記事項】

1. 前期・後期とも、教科書として使用する諸文献は購入を原則とする。
(費用は最大でも年間4000円程度。まとめて購入するので、個人で事前に求める必要はない)。
2. 演習のため、報告と並んで相互の議論を重視する。そのため、教員が指名して発言を求める場合がある。
3. 授業内容と関係の深い場所への校外視察(日帰り)を実施する場合がある。

総合教育演習

中川 知佳子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

言語学習を科学する

【授業の形態・方法・内容】

【内容・方法】

第一言語の習得は誰もが成功しているのに対し、第二言語や外国語の学習は成功する人と成功できない人がいます。それは何故でしょうか。言語学習には魔法のような学習方法があるわけではありません。しかし、誰もが最も効率のよい学習方法を知りたいと考えていることでしょう。近年の研究ではどのような学習方法が効果的だと考えられているのでしょうか。

本演習では以下のことを目標としている：

- 1) 言語習得や外国語学習についての文献を読み、研究分野の基礎的な知識を身につける
- 2) 一人ひとりが特に興味を持った分野についてより詳しく調査する
- 3) 討議を通して情報を批評的に読む力や論理的な思考を身につける
- 4) これまでの研究成果を踏まえた「実践」や「調査」を行う
- 5) 研究・調査の結果を発表する機会を設け、資料やデータに基づいた客観的な主張を行う

【形態】

授業は演習形式で、グループワークや個人研究を行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料などに基づいて学習するA型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせ形式)で授業を実施します。

海外渡航が可能な場合、海外ゼミ研修を行う予定です。

【到達目標】

演習内において、一つのテーマに基づいた文献を読み進め、調査を行い、資料に基づいた客観的な主張を最終レポートとしてまとめる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

- ・年間を通して研究テーマに関連する文献を読む。
- ・論文を読むのに必要な用語を調べる。
- ・研究発表の準備を行う。

(各自の調査等を含むため、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度)

【授業計画】

第1回 ガイダンス, レジユメの作成方法の確認

第2回 幼児期からの英語教育

- 第3回 学習に対する動機づけ
- 第4回 言語の技能（reading, writing, listening, speaking）と測定
- 第5回 研究手法の理解（先行研究の検索と読み方）
- 第6回 研究テーマの検討（1）・論文検索・意見交換
- 第7回 先行研究・要約発表（1）意見交換
- 第8回 先行研究・要約発表（2）意見交換
- 第9回 研究テーマの検討（2）・研究の実施方法について討議
- 第10回 海外ゼミ研修に向けた計画（1）研修に向けて研究テーマを明確化する
- 第11回 海外ゼミ研修に向けた計画（2）研修に向けて研究テーマを明確化する
- 第12回 海外ゼミ研修に向けた計画（3）事前準備（訪問先との交流準備）
- 第13回 海外ゼミ研修に向けた計画（4）事前準備（訪問先とのオンライン交流）
- 第14回 海外ゼミ研修に向けた計画（5）研修での調査実施方法の確認
- 第15回 研究計画の確認
- 第16回 海外ゼミ研修の報告（1）
- 第17回 海外ゼミ研修の報告（2）
- 第18回 研究進捗状況報告，データ分析方法の基礎知識
- 第19回 論文紹介（研究テーマに関連する論文），進捗状況報告（1）
- 第20回 論文紹介（研究テーマに関連する論文），進捗状況報告（2）
- 第21回 論文紹介（研究テーマに関連する論文），進捗状況報告（3）
- 第22回 調査結果の報告①，報告資料のまとめ
- 第23回 調査結果の報告②，報告資料のまとめ
- 第24回 報告資料のまとめ，および論文執筆（1：研究方法の確認）
- 第25回 ゼミ報告会リハーサル①および論文執筆（2：先行研究の確認）
- 第26回 ゼミ報告会リハーサル②および論文執筆（3：考察の確認）
- 第27回 ゼミ論文執筆（4：結論の確認）
- 第28回 ゼミ論文執筆（5：初校完成と校正）
- 第29回 ゼミ論文執筆（6：最終校正）
- 第30回 ゼミ論集完成・講評

【評価方法】

- ・授業内外において、研究計画や分析結果（考察）に対するフィードバックを行う。
- ・授業への取り組み（事前準備の状況・討議への参加）（20%）、発表（20%）、最終レポ

ート（60%）を総合的に評価する。

【教科書】

CiNiiや雑誌から論文等を検索し、適宜用いる (<https://ci.nii.ac.jp/>)

【参考文献】

- ・白井泰弘（2008）『外国語学習の科学 -- 第二言語習得論とは何か』東京：岩波新書.
 - ・バトラー後藤裕子（2015）『英語学習は早いほど良いのか』東京：岩波新書.
- その他、適宜紹介する。

【特記事項】

- ・欠席は1期3回、2期3回までとする（30分以上の遅刻・早退は欠席、3回の遅刻で1回の欠席とみなす）。
- ・担当者が授業の中心となるので無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は、事前に準備したハンドアウトを提出すること。
- ・海外ゼミ研修に参加する費用がかかる（期間や現地の状況によって価格が変動するが15万円程度の自己負担を見込む）
- ・感染症の状況により、海外渡航が困難な場合には授業計画が変更される可能性がある。
- ・国内で開催される英語教育系の学会への参加費や交通費の自己負担がある（宿泊を伴う場合は、ゼミ合宿の扱い）。
- ・研究の進捗状況に応じて、他大学学生との情報交換会を設ける場合がある。
- ・ゼミの時間以外で活動（英語活動・外国語指導の実践）を行う。

総合教育演習

野田 淳子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

“子育て”支援と家族関係の心理学

【授業の形態・方法・内容】

近年、子どもの育ちや家族関係をめぐる状況が大きく変化しつつあると言われます。非婚や晩婚化傾向、単身家庭の増加、高まる育児不安、時として虐待やDVといった現象が取り上げられ、それが「家族の危機」と呼ばれることも少なくありません。しかし、果たして家族は本当に崩壊してしまうのでしょうか？この演習では、そうした現象をただちに問題視するのではなく、むしろ背景にある対人関係や「育つ（変化・発達する）」ことの意味や条件、その法則性について、深く考えることをねらいとしています。

めまぐるしく変化する現代の社会が、家族を含む人々の「対人関係の形や働きにどのように作用し」「その心理的側面や関係性にどんな影響を与えうるか」、社会や私たち一人一人が「家族や子どもの育ちをはじめ、対人関係の発達をどのように支援できるか」といった問題について、自分自身が「問い」を発して答えをみつけて頂きます。

授業は演習形式でグループワークや個人研究を行い、授業内での発表についてはその都度、フィードバックを行います。また可能な範囲で、学外の子育て支援の現場でのボランティアやフィールドワークを予定しているため、授業時間外も積極的に活動する姿勢のある方を歓迎します。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料とリアルタイムで配信される授業参加の形態)で授業を実施します。

【到達目標】

この科目の到達目標は、以下の通りです。

- ・ 家族関係や子育て、その支援について、心理学を含む様々な視点から理解を深める。
- ・ 専門的なテキストの講読に慣れ、内容を理解し、批判的に吟味する力を培う。
- ・ レジюме作成・発表・議論を通して、プレゼンテーションと建設的に議論を行うスキルを身に付ける。
- ・ リサーチ・クエスチョン（学問として問うべき価値のある問い）を見出し、調査・実践等を通して研究をした結果についてゼミ発表を行う。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

➤ 毎回の授業で取り上げるテキストに関しての課題：

- ・ レポーターの課題：テキストのレジюмеを作成し、発表すること。レポーター以外の者が提出した「予習課題」の内容に書かれた疑問について調べて、答える。
- ・ レポーター以外の者：発表予定のテキストを事前に熟読し、内容に関する疑問・質問・意見をあらかじめ「予習課題」としてまとめ、授業時に毎回持参して提出する。

※なお「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外に行う事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 イントロダクション
- 第3回 文献検索のガイダンス
- 第4回 子育て支援施設紹介
- 第5回 文献講読：発表と討議(1)
- 第6回 文献講読：発表と討議(2)
- 第7回 文献講読：発表と討議(3)
- 第8回 文献講読：発表と討議(4)
- 第9回 文献講読：発表と討議(5)
- 第10回 文献講読：発表と討議(6)
- 第11回 文献講読：発表と討議(7)
- 第12回 文献講読：発表と討議(8)
- 第13回 各自の「問い」の発表(1)
- 第14回 各自の「問い」の発表(2)
- 第15回 前期の総括討議
- 第16回 夏休みの課題：発表と討論(1)
- 第17回 夏休みの課題：発表と討論(2)
- 第18回 夏休みの課題：発表と討論(3)
- 第19回 発表テーマとグループの決定
- 第20回 ゼミ研究報告・準備(1)
- 第21回 ゼミ研究報告・準備(2)
- 第22回 ゼミ研究報告・準備(3)
- 第23回 ゼミ研究報告・中間発表会
- 第24回 ゼミ研究報告・準備(4)
- 第25回 ゼミ研究報告・準備(5)
- 第26回 ゼミ研究報告・準備(6)
- 第27回 ゼミ研究報告・直前発表会
- 第28回 ゼミ研究報告の振り返り

第29回 最終レポートの発表(1)

第30回 最終レポートの発表(2)

※授業計画が変更される場合は、事前にお知らせします。

【評価方法】

・ I期・II期それぞれの期間で、授業回数の3分の2以上出席していることを、単位取得の条件とします。

・ 発表と発表資料の内容（50%）、レポート等の提出課題の内容（30%）、授業やグループワーク・実践活動での授業参加状況や積極性（20%）を総合的に評価します。

※評価の80%以上が授業参加を通しての評価となるため、出席率や積極性に乏しい場合は評価が厳しくなることに注意して下さい。

【教科書】

I期のテキストは下記など複数の書籍のなかから、ゼミで取り上げる本（章）を初回で検討する予定です。

・ 柏木恵子（2008）『子どもが育つ条件－家族心理学から考える』岩波新書

・ ジェームズ・J・ヘックマン（2015）『幼児教育の経済学』東洋経済

・ アリソン・ゴブニック（著）・渡会 圭子（翻訳）（2013）『思いどおりになんて育たない：反ペアレンティングの科学』森北出版

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

【特記事項】

◆ I期の進め方

現代の子育てや家族関係に関するテキストを購読・発表し、ディスカッションを通して各自が「問い」（リサーチ・クエスチョン）を見出すことが基本となります。レポーター以外の参加者は疑問点や意見を積極的に発表し、活発で建設的な議論を行うことを求めます。冒険遊び場の会「国分寺プレイステーション」等の子育て支援の場へ見学・活動参加に赴き、夏休みにはこれらの場での数日間のボランティア活動や文献検討を通して、前期に立ち上げた自らの「問い」を検討する課題に取り組んで頂きます。

◆ II期の進め方

夏休みに行った文献検討やボランティア実践をもとに検討した、「問い」に関する結果を発表します。そして、各自もしくはグループで「問い」を改めて絞り込み、年度末に行うゼミ研究発表会に向けて、その「問い」の検証を行って結果を発表します。ゼミ研究発表会までの間には適宜、中間報告や発表を行って頂きます。また、国分寺市の市民フェスティバル「ダンボールのまち」（4月もしくは10月に開催）や、「国分寺プレイステーション（冒険遊び場の会）」で毎年11月に行う「おまつり」に参加するなど、自分たちの「問い」を実践活動の中でも検証して頂きたいと考えています。

<その他の特記事項>

・ 履修を希望する者は、初回の授業に必ず出席すること。

・ 授業時間外に、学外施設でのボランティアやフィールドワークに積極的に参加すること。

・ 参加者の人数や興味関心に応じて、授業で取り上げる内容やスケジュールを調整する場合がある。

総合教育演習

早尾 貴紀

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ポストコロニアル批評で〈世界〉を読む

【授業の形態・方法・内容】

現代世界に対して人文学（ヒューマニティーズ）の役割とは何でしょうか。国内の格差社会、世界的な南北格差、あるいは移民・難民問題とレイシズム、民族紛争、性差別・性搾取、新自由主義的・新帝国主義的な国際関係を前にして、人文学は何ができるでしょうか。

世界最大の植民地帝国となった大英帝国は、その繁栄と裏腹に最大の暴力と搾取を極め、そしてまた文化や思想においても支配のためのイデオロギーとともに、最も鋭い批判と抵抗を各植民地の独立期そしてその独立後に生み出しました。なかでも英領インドだったインド（出身）の思想家らの英語による発信にはめざましいものがあります。たんにインド史や欧米とインドの関係にとどまらない、〈世界〉に広がる植民地主義を普遍的に論じる研究や批評が数多く刊行されています。

このゼミでは今年度は、二人のインド人の研究者を読みます。前半にヴィジャイ・プラシャド『褐色の世界史——第三世界とはなにか』（水声社）を丁寧に読み解き、アジア・アフリカ・ラテンアメリカにわたる「第三世界運動」の展開と挫折を理解します。アメリカ合衆国中心の資本主義陣営（第一世界）にも、ソビエト連邦中心の共産主義陣営（第二世界）にも、どちらにも取り込まれない「第三世界」の結集のプロジェクトは困難ななかでも多くの問題提起と成果を残しつつも、内外からの掘り崩しによって破綻させられます。その歴史に学ぶことはひじょうに大きいものがあります。

後半には、インド出身でアメリカ合衆国でポストコロニアル思想を論じるガヤトリ・スピヴァクの著書を読みます。スピヴァクは、インド（旧植民地）の身分的下層の女性という三重のマイノリティ性を「語ることの困難なサバルタン」と位置づけて、そこから近代植民地主義とグローバル資本とをジェンダー（性差別）の観点から分析・批判していきます。いまこそ最も重要な思想家であると言えます。

このプラシャドとスピヴァクを丁寧に読むという読書体験は、学生のみなさんにとって、大学で学ぶことの根底的な意味と、そして現代世界に対する人間の責任について、大きな示唆をもたらすでしょう。

授業の形態は講読です。担当と範囲を決めて、担当者はレジュメを作成して報告、それを受けて全員で議論をします。

授業内での発表については、その都度授業最後の教員からのコメントでフィードバックを行いません。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信)される授業に参加するもので授業を実施します。

【到達目標】

現代世界に対して人文学が果たすべき役割について、とりわけ国内の格差社会、世界的な南北

格差、あるいは移民・難民問題とレイシズム、性差別・性搾取、民族紛争、新自由主義的・新帝国主義的な国際関係について、学問が何をなしているのか、各人が自分の頭で考え自分の言葉にできるようにすることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

常日頃から指定テキストとなる本を持ち歩き、時間があれば毎日少しでも読み進めること。分からないことがあれば、極力自分で調べ物をしておくこと。最低でも毎週4時間程度を目安とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（ブラシャド、スピヴァクの著作紹介、進め方、分担決め）
- 第2回 ブラシャド『褐色の世界史』の「序」および「パリ：理念の誕生」を読む
- 第3回 ブラシャド『褐色の世界史』の「ブリュッセル：1927年 反帝国主義連盟」を読む
- 第4回 ブラシャド『褐色の世界史』の「バンドン：1955年 アジア・アフリカ会議」を読む
- 第5回 ブラシャド『褐色の世界史』の「カイロ：1961年 アジア・アフリカ女性会議」および「ブエノスアイレス：経済圏の構想」を読む
- 第6回 ブラシャド『褐色の世界史』の「テヘラン：想像力の要請」を読む
- 第7回 ブラシャド『褐色の世界史』の「ベオグラード：1961年 非同盟諸国運動会議」および「ハバナ：1966年 三大陸人民連帯会議」を読む
- 第8回 ブラシャド『褐色の世界史』の「アルジェ：独裁国家の危険」および「ラパス：兵舎からの解放」を読む
- 第9回 ブラシャド『褐色の世界史』の「バリ：共産主義者の死」および「タウン：もっとも汚い戦争」を読む
- 第10回 ブラシャド『褐色の世界史』の「カラカス：石油、悪魔の排泄物」および「アルーシヤ：性急な社会主義」を読む
- 第11回 ブラシャド『褐色の世界史』の「ニューデリー：第三世界への弔辞」を読む
- 第12回 ブラシャド『褐色の世界史』の「キングストン：IMF主導のグローバリゼーション」を読む
- 第13回 ブラシャド『褐色の世界史』の「シンガポール：アジアの道という誘惑」を読む
- 第14回 ブラシャド『褐色の世界史』の「メッカ：文化が残酷になりうるとき」および「おわりに」を読む
- 第15回 ブラシャド『褐色の世界史』の「訳者あとがき：第三世界をもういちど」を読み、一冊を通じた総括的な議論を行なう
- 第16回 ガヤトリ・スピヴァクのインタビューや来日講演を読み、スピヴァクの思想の基本を確認する

- 第17回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第1章「哲学」を読む（1）
- 第18回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第1章「哲学」を読む（2）
- 第19回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第1章「哲学」を読む（3）
- 第20回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第2章「文学」を読む（1）
- 第21回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第2章「文学」を読む（2）
- 第22回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第2章「文学」を読む（3）
- 第23回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第3章「歴史」を読む（1）
- 第24回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第3章「歴史」を読む（2）
- 第25回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第3章「歴史」を読む（3）
- 第26回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第4章「文化」を読む（1）
- 第27回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第4章「文化」を読む（2）
- 第28回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の第4章「文化」を読む（3）
- 第29回 スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』の「付録」および「訳者あとがき」を読み、本書全体の総括的な議論を行なう
- 第30回 プラシャド、スピヴァクの二冊を通して得られた学びを、日本も含む世界的な文脈でどのように敷衍できるのかを討論する

【評価方法】

1. 自分の担当回の報告内容 50%
2. 担当回以外の参加姿勢 50%

以上による総合評価。

【教科書】

ヴィジャイ・プラシャド『褐色の世界史ー第三世界とはなにか』（水声社）
ガヤトリ・スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』（月曜社）

【参考文献】

ゼミの進行過程で都度紹介する

【特記事項】

総合教育演習

山辺 弦

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

世界各地域の短編小説を翻訳で読む

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式でテキストの輪読や個人研究、グループワークをおこないます。

文学を読むことは、ただ楽しみを与えるだけではなく、私たちの知らない時空間について想像上の体験をさせ、世界に対する新たな視野を与えてくれもします。その意味で、世界の各地域・各言語で書かれた文学を読むことは、世界へと開かれた「窓」のようなものだとも言えるでしょう。しかし同時に、文学作品はただ情報を与えるものではなく、さまざまな仕掛けや謎を通して、読者をさらなる思考に誘うものです。文学という世界への「窓」を十分に開け放つためには、作品が発するこの問いかけにじっくりと向き合い、深く分析や議論をおこなう必要があります。

このような視点から、この授業では世界中の短編小説を題材にして、受講者がその作品中に「何が」「どのように」「どんな背景で」書かれているかという問いを分析し、議論していくことにより、世界の文学・文化・歴史・社会について考察していきます。作品は邦訳のあるものを選び、毎回議論をリードする発表者を立てながら、日本語による読解とディスカッションをおこないます。対象となる地域・文化圏は、アメリカとその周辺、ヨーロッパとその周辺、ラテンアメリカ、アジア、中東、アフリカ等を予定しています。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

多種多様な文学作品の読解や議論を通して、人間や芸術に関する思弁を深めるとともに、文学を「世界への窓」としながら広く海外の文化や社会を考察する能力を獲得することを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

各回の発表者は、少なくとも以下の諸点に対する考察と、自分の感想・疑問点などを含めた発表資料を作成してください。

「何が」書かれているか・・・作品の筋や、核となるテーマ・表現など

「どのように」書かれているか・・・文章上の工夫の指摘、気になった表現など

「どんな背景で」書かれているか・・・作家について略歴などの基本情報、作品の背景など

発表担当以外の人については、毎回各自が教材を読み、発表者と同じく自分の考えをまとめておく必要があります。発表後の全体討議の際は、各受講者が積極的に意見やコメント、質問を提出することが必要となります。

発表の方法、分担などの詳細は授業開始以降に指示します。なお、「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたりますので、授業時間外におこなう事前事後学習に要する時間は4時間程度となります。

【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション 授業のガイダンス
- 第2回 「読む」ための方法 分析概念や手法について
- 第3回 アメリカとその周辺の短編文学作品を対象とする個人発表 1
- 第4回 アメリカとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 2
- 第5回 アメリカとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 3
- 第6回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 1
- 第7回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 2
- 第8回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 3
- 第9回 ラテンアメリカの短編作品を対象とする個人発表 1
- 第10回 ラテンアメリカの短編作品を対象とする個人発表 2
- 第11回 ラテンアメリカの短編作品を対象とする個人発表 3
- 第12回 アジアの短編作品を対象とする個人発表 1
- 第13回 アジアの短編作品を対象とする個人発表 2
- 第14回 アジアの短編作品を対象とする個人発表 3
- 第15回 1期まとめとディスカッション
- 第16回 2期イントロダクション
- 第17回 「読む」とはどういうことか いくつかの批評的テーマについて
- 第18回 アメリカとその周辺の短編文学作品を対象とする個人発表 4
- 第19回 アメリカとその周辺の短編文学作品を対象とする個人発表 5
- 第20回 アメリカとその周辺の短編文学作品を対象とする個人発表 6
- 第21回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 4
- 第22回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 5
- 第23回 ヨーロッパとその周辺の短編作品を対象とする個人発表 6
- 第24回 中東の短編作品を対象とする個人発表 1
- 第25回 中東の短編作品を対象とする個人発表 2
- 第26回 中東の短編作品を対象とする個人発表 3
- 第27回 アフリカの短編作品を対象とする個人発表 1
- 第28回 アフリカの短編作品を対象とする個人発表 2
- 第29回 アフリカの短編作品を対象とする個人発表 3
- 第30回 2期まとめとディスカッション

【評価方法】

授業参加状況、議論への積極的な参加、受講態度、割り当てられた課題およびレポート等の提出と内容などを総合的に評価します（100%）。授業内での発表・質問に関しては、その都度フィードバックをおこないます。

【教科書】

教科書としては主に、『世界文学アンソロジー これからはじめる』（三省堂、秋草俊一郎他編、2019年）、および『世界の文学、文学の世界』（松籟社、奥彩子他編、2020年）のどちらかあるいは両方を想定しています。これに加え、必要な場合は適宜追加の作品を提案したり、プリントなどを配布したりします。

【参考文献】

特に指定はありませんが、必要に応じて授業中に指示します。

【特記事項】

授業計画はおおむね上記の通りですが、参加者の参加履歴、人数、関心、理解度などを考慮し各回の内容や順序に変更を加えることがあります。また、各地域や語圏を対象とした映像資料などを鑑賞したり、実践的な批評行為への理解を深めるため、課外活動やゼミ合宿などの機会を持つ場合もあります。

演習形式で進めるため、受講者には発表の担当箇所だけでなく、毎回の授業における積極的な参加・発言を求めます。準備のための負担は決して軽くはありません。受講者は文学作品や物語を読み解くことに自発的な興味を持ち、意欲的に授業に取り組まなくてはなりません。

総合教育演習

横畑 知己

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

現代史を学ぶーアメリカ合衆国を中心として

【授業の形態・方法・内容】

現代は、政治、経済、文化など、あらゆる側面で、グローバル化が叫ばれる時代である。このような状況の中で、一人一人の人生の「羅針盤」として、自前の「世界地図」をどうやって作ったらいのだろうか。残念ながら、高校卒業の時点で、日本史であれ、世界史であれ、現代史を一通り学んだという人は極めて少数であろう。さらに、日本史と世界史は別建ての教科として取り扱われるので、近現代史を理解するうえで当然求められるはずの「世界史」（日本を含む）の総合的な学びを経験することは、一層困難な状況にある。本演習では、教材や学習形態に工夫しながら、楽しく「現代史」を学ぶ機会を提供したいと思っている。

本年度は、主に、アメリカ合衆国（以下、アメリカ）の近現代史を対象として、研究を進める。20世紀初頭以来、最大の覇権国家となったアメリカの歴史を、建国期（前史を含む）から現在に至るまで、通史的に取り上げる。シリーズ「アメリカ合衆国史（岩波新書、全4冊）をメインテキストとして、日本、世界との関連に留意して研究を進める。基本的なテキストの講読と並行して、関連するアメリカ映画の諸作品を歴史を読み解く資料として取り上げていきたい。なお、この授業は、演習形式で行う。個々の学生に対しては、口頭発表、レポート提出の際、随時、フィードバックを行う。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、A型(配信された講義資料などに基づいて学習するもの)で授業を実施します。（なお、この演習は2年計画で行う）

【到達目標】

本演習では、とくに、本を「よむこと」、映像を「よむこと」に慣れることによって、内容理解とともに、「読解力」そのものを高めることを目標とする。これまで読書経験が少ないと思っている人、映画を見る機会が少ない人、あるいは逆に、読書好き、映画好きの人、いずれの人々にとっても有益な授業となるように工夫していきたい。本ゼミでの学習を通じて、専門教育の学習の幅を広げ、社会人として必要な教養の基礎を養っていきたい。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

下記に記した参考文献などを手がかりにして、関連する本に目を通したり、DVDなどを事前に観ておくと、より深い学習が出来るだろう。最低、事前・事後学習合わせて4時間程度が、求められる。

【授業計画】

第1回 (前期)

ガイダンスー授業計画、報告の分担

第2回 テキスト講読 (1)

第3回 テキスト講読 (2)

第4回 テキスト講読 (3)

第5回 テキスト講読 (4)

第6回 映像資料視聴 (1)

第7回 テキスト講読 (5)

第8回 テキスト講読 (6)

第9回 テキスト講読 (7)

第10回 テキスト講読 (8)

第11回 映像資料視聴 (2)

第12回 個人発表 (1)

第13回 個人発表 (2)

第14回 個人発表 (3)

第15回 まとめの討論

第16回 (後期)

授業計画、報告の分担

第17回 テキスト講読 (1)

第18回 映像資料視聴 (1)

第19回 テキスト講読 (2)

第20回 映像資料視聴 (2)

第21回 テキスト講読 (3)

第22回 映像資料視聴 (3)

第23回 テキスト講読 (4)

第24回 映像資料視聴 (4)

第25回 個人発表 (1)

第26回 個人発表 (2)

第27回 個人発表 (3)

第28回 映像資料視聴（5）

第29回 映像資料視聴（6）

第30回 まとめの討論

【評価方法】

口頭発表,半期につき、最低1回,50点、レポート,半期につき、最低1回,50点。

【教科書】

中野耕太郎『20世紀アメリカの夢—世紀転換期から1970年代』（岩波新書、2019年、シリーズ「アメリカ合衆国史」③）

古谷 旬 『グローバル時代のアメリカ—冷戦時代から21世紀』（岩波新書、2019年、シリーズ「アメリカ合衆国史」④）

【参考文献】

エリック・ホブズボーム『20世紀の歴史』上下2冊（ちくま学芸文庫、2018年）ほか

【特記事項】

ゼミの内容についての問い合わせは、研究室にて、随時受け付けます。

総合教育演習

吉見 崇

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

現代中国を歴史的に読み解く

【授業の形態・方法・内容】

皆さんが中国と聞いて想起するイメージは何でしょうか。例えば、「中華思想」や「独裁」でしょうか。もちろん、こうした特徴を、現代中国が有していることは否定できません。しかし、本当にそれらの特徴だけに、現代中国の全体像を収斂させることができるのでしょうか。またそこには、私たちとは異質な国という先入観が存在していないのでしょうか。

本演習では、まず初めに、現代中国についてご自身が関心のあるテーマを設定していただきます。次に、そのテーマを自分なりの視角から考察していただきます。そして、そのような作業を通じて、現代中国が抱える問題を検討する視座をどのように構築することができるのか、議論していきたいと思えます。

本演習は、演習形式で、個人研究に基づく発表、討論を行います。また、授業中の発表に対して、フィードバックを行います。

* 原則対面授業で実施します。遠隔授業となった場合は、C型（リアルタイムに配信される授業）で実施します。

【到達目標】

この科目は、歴史的な視角に基づきながら、現代中国の基本的な知識を身につけていくとともに、様々な事象を多角的に分析していく力を養っていくことも目指します。

【前期】

現代中国を通史的に理解した上で、先行研究と対話しながら、自分自身の研究テーマを設定する。

【後期】

前期に設定したテーマについて考察し、さらにそこから現代中国を検討する視座について議論する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

「大学設置基準」上、この科目は「演習」科目にあたるため、授業時間外の事前・事後学習に要する時間は4時間程度です。具体的には、以下のことを行ってください。

1.ご自身の関心に基づきながら、先行研究を調べ、その主張の特徴とそれに対する疑問点を整理してください。なお、報告者は、それらをレジュメにまとめて準備してください。

2ご.自身が設定したテーマについて考察し、その成果をレジユメを作成して、報告してください。

3. 現代中国を考える視座について議論するため、中国および台湾、香港についてのニュースに常に関心をもって、接してください。

4. 演習終了後、研究の成果をまとめたレポートを提出していただくので、準備、作成をお願いします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 現代中国の通史的理解 (1)

第3回 現代中国の通史的理解 (2)

第4回 現代中国の通史的理解 (3)

第5回 先行研究と対話するとは何か

第6回 先行研究との対話 (1)

第7回 先行研究との対話 (2)

第8回 先行研究との対話 (3)

第9回 先行研究との対話 (4)

第10回 研究テーマの設定 (1)

第11回 研究テーマの設定 (2)

第12回 研究テーマの設定 (3)

第13回 研究テーマの設定 (4)

第14回 研究テーマの設定 (5)

第15回 前期のまとめと後期へ向けて

第16回 ガイダンス

第17回 テーマについての中間報告 (1)

第18回 テーマについての中間報告 (2)

第19回 テーマについての中間報告 (3)

第20回 テーマについての中間報告 (4)

第21回 テーマについての中間報告 (5)

第22回 テーマについての研究報告 (1)

第23回 テーマについての研究報告 (2)

第24回 テーマについての研究報告 (3)

第25回 テーマについての研究報告 (4)

第26回 テーマについての研究報告 (5)

第27回 現代中国を考える視座 (1)

第28回 現代中国を考える視座 (2)

第29回 現代中国を考える視座 (3)

第30回 まとめ (総合討論)

【評価方法】

授業への参加、発表 (70%)、レポート (30%) で、総合的に評価します。

【教科書】

特に教科書は指定しませんが、参考までに以下の文献をあげておきます。

・久保亨他著『現代中国の歴史－兩岸三地100年のあゆみ〔第2版〕』(東京大学出版会、2019年)。

・〔岩波新書 シリーズ中国近現代史〕

吉澤誠一郎著『清朝と近代世界 19世紀』(2010年)。

川島真著『近代国家への模索 1894－1925』(2010年)。

石川禎浩著『革命とナショナリズム 1925－1945』(2010年)。

久保亨著『社会主義への挑戦 1945－1971』(2011年)。

高原明生・前田宏子共著『開発主義の時代へ 1972－2014』(2014年)。

・若林正丈著『台湾－変容し躊躇するアイデンティティ』(筑摩書房、2001年)。

・倉田徹・張彧啓共著『香港－中国と向き合う自由都市』(岩波書店、2015年)。

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【特記事項】

各回において、報告者だけでなく、参加者全員に発言を求めます。積極的に授業に臨んでください。

総合教育演習

李 孝徳

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

アートを深掘りし、ギャラリートークを試みる

【授業の形態・方法・内容】

【授業の形態・方法】

この授業は演習形式で、レポートの執筆、グループワーク、発表を行います。manabaを併用しますので、当該のコースを必ず確認するようにしてください。

なお対面授業で行う予定ですが、コロナウイルスの感染状況によりC型（リアルタイム配信による双方向の授業）に切り替えることがあります。その際は授業の進め方をあらためて説明します。

【授業の内容】

本授業では、アート作品（ここでのアートとは古今東西の言語、音楽、美術、映像、身体などのあらゆる芸術表現を指します）の鑑賞について学び、それを踏まえて各自がアートに関する研究や自ら選んだアート作品について発表を行い（ギャラリートーク形式）、皆で討論します。ただ好きなアート作品について論じることを越えて、そこに表現されている現代世界とそこに生きる人間の諸問題について考察することが目的です。

アート作品は制作者の意図はもとより、制作された時代や場所を超えて人間と世界のかかわりを鋭く表現することがあります。つまりアート作品が「いま、ここ」においてアクチュアリティやリアリティを持ちうるのは、アート作品の意義・意味が、それを鑑賞する人間の持つ意義・意味と出会うからです。そしてその意義・意味が普遍性を持ちうるのは、その「出会い」が決して個人の問題に終わらず、常にその個人が生きる「世界」と深く関わることによっています。

そこでこのゼミでは、アート鑑賞を個人の楽しみとして終わらせることなく、自らの生きる世界（現代世界）の問題を考えるための入り口として考察することを行います。アート作品を、たんなる知識や情報として扱うのではなく、そこに自分の生きる世界の諸問題を看取する対象として取り組み、世界のあり方を考える導きにするわけです。そのためには考察の仕方を学び、対象に対して考え、討論し、発表することが不可欠です。こうした作業を通して現代世界に対する感性を磨くことを目指します。

受講者には各報告での質疑・応答時および、毎回manabaの「小テスト」形式でリアクションペーパーを書いて提出してもらい、随時フィードバックを行います。

【到達目標】

この授業は、内外の芸術作品を学ぶことを通じて、芸術に対する批評的リテラシーを培うだけでなく、現代社会の複雑な諸事情を的確に分析・理解できるようになるための人文学的リテラシーの涵養を目標とします。現代社会で必要とされる幅広い教養と作品に関わる諸外国・諸地域に関する基本的な言語・知識・能力を身につけつつ、その言語・知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力を養成するものです。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

【事前・事後学習】

教員が授業中に指定する文献・資料をあらかじめ読んで授業に参加してください。また、本講義で扱うアート作品は事前に視聴して授業に参加するようにしてください。指定する文献・資料の詳細は授業中に指示します。

「大学設置基準」上、この科目は「講義」科目にあたりますので、1回の授業とその授業の事前事後学習に要する時間はあわせて4時間程度となります。上述の事前準備にしっかりと取り組むようにしてください。

【授業計画】

第1回 前半（第1回－15回）の講義内容、全体のスケジュール、受講者の報告内容、担当などについてガイダンスを行います。

第2回 テキストの輪読と討論(1)

第3回 テキストの輪読と討論(2)

第4回 テキストの輪読と討論(3)

第5回 テキストの輪読と討論(4)

第6回 テキストの輪読と討論(5)

第7回 テキストの輪読と討論(6)

第8回 ギャラリートークの実践(1)

第9回 ギャラリートークの実践(2)

第10回 ギャラリートークの実践(3)

第11回 ギャラリートークの実践(4)

第12回 ギャラリートークの実践(5)

第13回 ギャラリートークの実践(6)

第14回 ギャラリートークの実践(7)

第15回 第1学期の授業の振り返り

第16回 後半（第16回－30回）の講義のガイダンスを行います。先行研究について情報交換し、選定作品を確認して、全体のスケジュール、受講者の報告内容について確認します。

第17回 先行研究の発表(1)

第18回 先行研究の発表(2)

第19回 先行研究の発表(3)

第20回 先行研究の発表(4)

第21回 先行研究の発表(5)

第22回 先行研究の発表(6)

第23回 作品に対するレビューの報告(1)

第24回 作品に対するレビューの報告(2)

第25回 作品に対するレビューの報告(3)

第26回 作品に対するレビューの報告(4)

第27回 レポート概要の報告(1)

第28回 レポート概要の報告(2)

第29回 レポート概要の報告(3)

第30回 レポート概要の報告(4)

【評価方法】

1. リアクションペーパー（毎回提出）… 30%

2. 報告の内容と討論への参加度… 30%

3. 最終レポート… 40%

* 以上3点による総合評価（計100%）

* 1・2については、授業中（随時）に全体の講評及び応答によってフィードバックを行います。

【教科書】

本授業では教科書を用いません。必要な講義概要・資料は毎回の授業で配付します。

【参考文献】

三浦『まなざしのレッスン1 西洋伝統絵画』（東京大学出版会、2001年）

三浦『まなざしのレッスン2 西洋近現代絵画』（東京大学出版会、2015年）

【特記事項】

具体的なアート作品を扱うゼミなので、受講者は各々自分が関心を持ち、調査・吟味できるフィールドを持って受講することが望ましい。また実際に美術館・博物館での鑑賞を計画しているが、開催する場合は授業の一環として参加が必須となる。

総合教育演習

李 杏理

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

戦争と民衆について考える

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式でグループディスカッションやプレゼンテーションを行う。
アジア太平洋戦争と朝鮮戦争を手がかりに、戦争がいかに民衆を巻き込み、生命を奪い、心身を動員してきたかを探る。「民衆」と一口に言っても、ジェンダー、民族/人種、階級/階層、障害といった差異が存在する。これらの差異や権力関係を踏まえて、東アジアの冷戦構造と帝国主義との関係について考究する。同時代を表す日韓の大衆音楽・映画等にも触れていく。
毎週のプレゼン担当者以外の参加者も、文献を踏まえた小レポートを毎回提出してもらおう。プレゼンとレポートについて、毎回フィードバックする。

【到達目標】

この科目は「教養」に関する「基本的な知識と能力」を身につけるための科目です。

1. 現代史に対する積極的な興味や関心を抱き、それを表明できる。
2. 上記の関心を深めるために必要な知見を文献から得ることができる。
3. 他の学生や教員との対話を通じて、自らの関心・知見を再検討し、磨き上げ、発展させることができる。
4. 上記の興味、関心、知見を通じて社会と作品をより深く考察することができる。

このような4点をクリアすることを到達目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養

(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

(経済学部 DP5)自己学修能力

(経営学部/経営学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(現代法学部 DP1)多様な文化、歴史および自然に関する幅広い教養と外国語を身に付けて、持続可能な地球社会の形成に主体的に寄与できる能力

(現代法学部 DP2)現実の社会問題に触れながら、法と政策に関する専門知識を適切に修得し、社会を多角的に考えることができる能力

【事前・事後学習】

プレゼン担当者は事前に文献を精読し、パワーポイントまたはワードの文書にまとめる。担当者以外も、該当文献を熟読し、小レポートに引用する箇所をマーカーまたはメモしておく。

東アジアと世界の近現代史に関する映画や本を読む、歴史教科書を読み返す、韓国映画やドラマを見る、それについて友人や知人と感想や意見を交換する、関連する参考文献を調べる、といった活動を日常的に行い、現代史に対する自らの感性を日常的に刺激すること。

事前の文献購読とプレゼン準備と事後のレポート作成・関連学習に併せて4時間程度を要する。

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション

第2回 文献購読：草の根のファシズム（1）

第3回 文献購読：草の根のファシズム（2）

第4回 文献購読：草の根のファシズム（3）

第5回 文献購読：草の根のファシズム（4）

第6回 文献購読：戦争とトラウマ、戦争と男性性研究

第7回 映画鑑賞とディスカッション

第8回 文献購読：軍隊と性暴力（1）

第9回 文献購読：軍隊と性暴力（2）

第10回 文献購読：軍隊と性暴力（3）

第11回 文献購読：フェミニズムと戦争（1）

第12回 文献購読：フェミニズムと戦争（2）

第13回 文献購読：敗戦後の民衆生活

第14回 文献購読：戦後処理と植民地問題

第15回 前期まとめ：ディスカッション

第16回 学びたいトピックを整理

第17回 文献購読：第二次世界大戦から米ソ冷戦へ（1）

第18回 文献購読：第二次世界大戦から米ソ冷戦へ（2）

第19回 文献購読：朝鮮半島の近代史を学ぶ

第20回 文献購読：朝鮮半島の現代史を学ぶ

第21回 文献購読：朝鮮戦争の歴史

第22回 文献購読：朝鮮戦争と日本

第23回 映画鑑賞とディスカッション

第24回 文献購読：朝鮮戦争の社会史（1）

第25回 文献購読：朝鮮戦争の社会史（2）

第26回 文献購読：朝鮮戦争の社会史（3）

第27回 文献購読：朝鮮戦争の社会史（4）

第28回 文献購読：国連軍の犯罪（1）

第29回 文献購読：国連軍の犯罪（2）

第30回 後期まとめ：ディスカッション

【評価方法】

日常の授業への参加（25%）、発表の内容（25%）、レポートの総合評価（50%）。

【教科書】

指定しない

【参考文献】

上原一慶、桐山昇ほか『新版 東アジア近現代史』有斐閣Sシリーズ、2015年
金東椿『朝鮮戦争の社会史—避難・占領・虐殺』金美恵訳、平凡社、2008年
倉沢愛子、杉原達ほか『20世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店、2006年
鈴木裕子『フェミニズムと戦争—婦人運動家の戦争協力』マルジュ社、1997年
宋連玉、金栄『軍隊と性暴力—朝鮮半島の20世紀』現代史料出版、2010年
鄭敬謨『断ち裂かれた山河—雲上鼎談・韓国現代史』影書房、1984年
藤目ゆき『国連軍の犯罪—民衆・女性から見た朝鮮戦争』2000年
吉見義明『草の根のファシズム—日本民衆の戦争体験』岩波現代文庫、2022年
油井大三郎、古田元夫『世界の歴史28 第二次世界大戦から米ソ冷戦へ』中央公論新社（中公文庫）、2010年 *ほか、授業中に提示する。

2023年度『総合教育演習(ゼミ)』概要

編 集 東京経済大学 全学教務委員会

発行日 2022年11月

発 行 東京経済大学 学務課